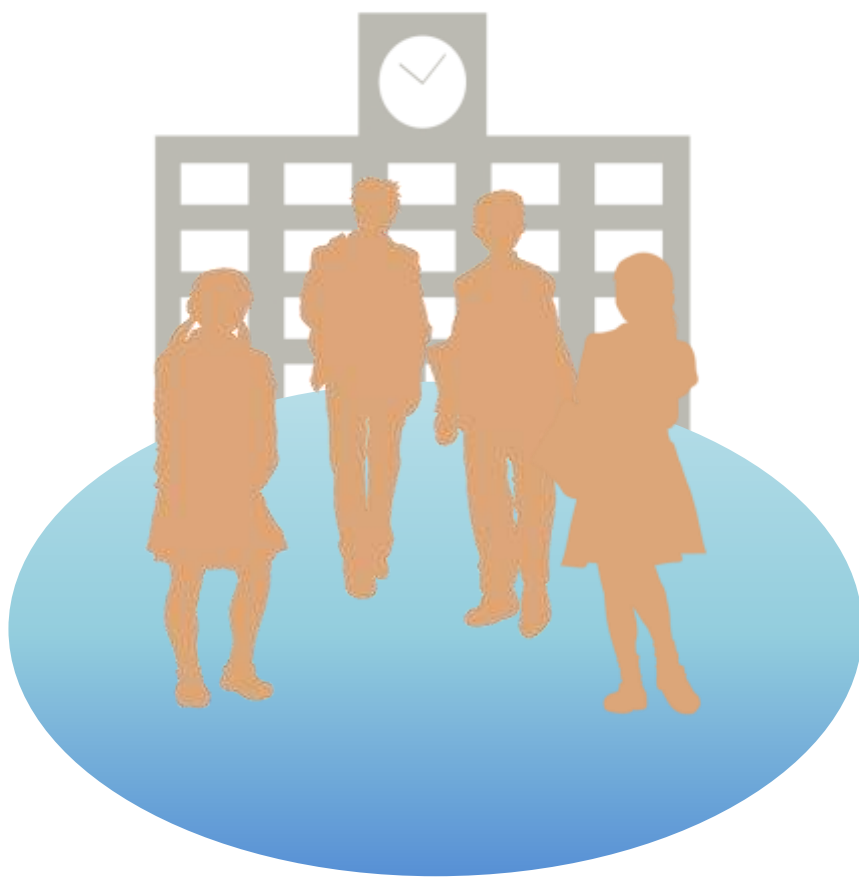


高校生学校安全アクション実践事例集



平成 27 年 3 月
山 口 県 教 育 委 員 会

「高校生学校安全アクション実践事例集」について

「高校生学校安全アクション」は、学校安全に関する子どもたちの主体的な活動の立案及び実施の過程を通じて、自他及び地域・社会の安全のために主体的に判断・行動し、社会の安全に貢献できる力を育成することを目的とした取組です。

本事例集は、平成26年度、山口県内の各公立高等学校及び県立下関中等教育学校後期課程において、生徒が中心となって取り組んだ「高校生学校安全アクション」について、計画内容、実際の活動の様子、活動の成果と課題、生徒の感想等をまとめたものです。

今後、各学校において、児童生徒の主体的な安全活動の取組が、いっそう充実・発展していくことを願っています。

「高校生学校安全アクション実践事例集」 目次

番号	学 校 名	取 組 の タ イ ト ル	取組の領域				ページ
			防犯	交通	防災	ネット等	
1	周防大島高等学校安下庄校舎	有志生徒による地域クリーンウォーク					1
2	周防大島高等学校久賀校舎	救急救命法の講習会					2
3	岩国高等学校	サイクル・スクールリーダー、PTA、警察署による下校時声掛け運動					3
4	岩国高等学校坂上分校	交通安全に対する地域ぐるみの啓発活動ならびに防災意識の高揚					4
5	岩国高等学校広瀬分校	小高合同学校安全学習 ～ぼくらは地域の守り隊～					6
6	岩国総合高等学校	自転車の鍵かけ運動					8
7	高森高等学校	1学年生徒による防災講演会					10
8	岩国商業高等学校	本校交通委員会を中心とした交通安全への取組					12
9	岩国商業高等学校東分校	定時制普通科生徒を対象とした防災授業					14
10	岩国工業高等学校	平成26年8月6日の岩国市大雨被害について					16
11	柳井高等学校	自転車の交通安全					18
12	柳井商工高等学校	生徒と教員の信頼の懸け橋となる交通安全指導					19
13	熊本南高等学校	春の交通安全キャンペーン					21
14	田布施農工高等学校	有志生徒による交通安全の呼びかけ					22
15	光高等学校	生徒一人ひとりの安全意識を高めるための「光高校安全宣言」					23
16	光丘高等学校	自転車盗難防止・避難訓練					25
17	下松高等学校	サイクル・スクールリーダーとボランティア生徒による自転車盗難被害防止のための広報活動					26
18	華陵高等学校	サイクル・スクールリーダーの取組 (1)自転車施錠点検(2)交通安全教室実技体験					27
19	下松工業高等学校	交通安全意識の向上					28
20	熊本北高等学校	交通安全教室・自転車点検					30
21	徳山高等学校	交通安全教室・「徳山高等学校自転車マナーアップキャンペーン」 交通安全「おはよう」キャンペーン・生徒会ボランティア活動					31
22	徳山高等学校鹿野分校	防災意識を高める					33
23	徳山高等学校徳山北分校	須々万地区の土砂災害危険箇所調査					34
24	新南陽高等学校	通学路ヒヤリハット					35
25	徳山商工高等学校	専門高校の特色を生かした防災に関する出前授業					37
26	南陽工業高等学校	生徒会による校内危険箇所マップと安全表示の作成					38

番号	学校名	取組のタイトル	取組の領域				ページ
			防犯	交通	防災	ネット等	
27	防府高等学校	生徒会役員による万引き防止リーダーズ活動「C.C.作戦」					40
28	防府高等学校佐波分校	校外でのあいさつ・交通安全運動の実施					42
29	防府西高等学校	生徒会による学校安全マップの作成					43
30	防府商工高等学校	交通安全宣言式					44
31	山口高等学校	生徒によるケータイ・スマホ使用のルールづくり					45
32	山口高等学校徳佐分校	交通安全教室					46
33	山口中央高等学校	生徒による保育園児への交通安全指導					47
34	西京高等学校	交通安全委員会による自転車点検					49
35	山口農業高等学校	家庭クラブ・生徒会による交通安全キャンペーン					50
36	宇部高等学校	少年リーダーズ活動					51
37	宇部中央高等学校	交通委員による交通安全を呼びかける「立て看板」の作成・設置					52
38	宇部西高等学校	交通委員による自転車点検と下校時の交通指導					53
39	宇部商業高等学校	生徒会による自転車安全点検活動					54
40	宇部工業高等学校	交通安全教育の充実					55
41	小野田高等学校	ハザードマップ作成					56
42	厚狭高等学校	災害ボランティア講演会 いのちを守る防災教育					57
43	小野田工業高等学校	(1) 生徒会による交通安全指導及びあいさつ運動 (2) スマートフォン使用の実態についてのアンケート調査					59
44	美祢高等学校	携帯電話等の利用状況に関する意見交換					65
45	青嶺高等学校・美祢青嶺高等学校	風紀委員会による自転車施錠キャンペーン					67
46	田部高等学校	実践的な救急法を学ぶ					68
47	西市高等学校	危険箇所マップの作成					69
48	豊浦高等学校	(1) 津波を想定した防災対策 (2) 高校生による地域の防犯活動・交通安全運動					70
49	長府高等学校	下関市避難所生活体験活動に参加して					72
50	下関西高等学校	生徒会生徒による薬物乱用防止についての事例発表					73
51	下関南高等学校	気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 そのときどうする？」に参加して					74
52	響高等学校	学校防災講座「学校（JRC）と消防署がタイアップ」					76
53	豊北高等学校	交通委員・風紀委員による全校生徒を対象とした「交通安全教室」					77
54	下関中央工業高等学校	生徒会及び交通委員会による交通安全キャンペーン					79
55	下関工業高等学校	「ダメ。ゼッタイ。」国際麻薬乱用撲滅ヤング街頭キャンペーン					80
56	大津緑洋高等学校大津校舎	「サイクル・スクールリーダー」による交通安全及び防犯の啓発活動					81
57	大津緑洋高等学校日置校舎	地域に根差した安全意識の醸成					82
58	大津緑洋高等学校水産校舎	地域と連携し、安全意識の高揚をめざす					84
59	萩高等学校	生徒会執行部と地域の方（町内会長）との懇話会の開催（主に交通安全について）及びその内容の全校生徒へのフィードバック					86
60	萩商工高等学校	部活動生徒による災害安全に向けた取組					88
61	奈古高等学校	生徒が中心となった交通安全への取組					89
62	下関中等教育学校	少年リーダーズによる万引き防止のための活動					90
63	下関商業高等学校	自転車安全教室					91

学 校 名	山口県立周防大島高等学校安下庄校舎
取組のタイトル	有志生徒による地域クリーンウォーク
取組の概要	「学校をきれいにする」をコンセプトに3年前に生徒会が発案し、始まった取組である。学校周辺地域のゴミ拾いをしながら地域の方と言葉を交わす生徒も多い。地域とのつながりを強めることで、防犯意識の高まりにも期待している。

1 計画の内容

- (1) 生徒会が企画し、参加生徒・教員を募集する。
 考査期間中に実施計画を各クラスに掲示し、参加者を募る。
- (2) 使用する道具などを揃える。
 ゴミ拾いに使用するゴミ袋や火ばさみなどの道具を用意する。
- (3) 生徒会が3つのグループに割り振り、45分間担当場所のゴミ拾いを行う。
 収集したゴミは生徒会で分別して、運搬用トラックに積む。
- (4) 年間5回、考査の最終日に行っている。
 5月、7月、10月、12月、3月の5回行っている。

2 活動の様子

- (1) ゴミを拾いながら歩く様子
 各自ゴミ袋や火ばさみなどを持って、割り振られた場所でゴミを探す。植木の奥にあるゴミを見つけたときには、腕を伸ばして取るなど積極的な姿も見られる。
 その姿を見ていた地域の方から感謝の声をかけてもらえると、生徒たちは互いに喜びの表情を見せる。
- (2) 収集したゴミを分別する様子
 全体が解散した後、生徒会は収集したゴミを分別する。
 燃えるゴミ、燃えないゴミ、ビン、カン、金属など、多くのゴミがあり、時間がかかり、また、手も汚れるが、終わった後は達成感を感じている生徒が多い。



3 生徒の感想

- ・クリーンウォークでゴミを集めてみると、毎回大量のゴミがあることに驚きます。自分たちが生活する地域にこんなにゴミがあったなんて…。地域の方にも気持ちよく生活していただけるように、これからも頑張っていきたいです(2年女子)。
- ・生徒会役員として活動していて、毎回部活動を中心に50名以上の方が集まってくれるので嬉しいです。年間5回実施していますが、もっとたくさんの方に協力してもらえたらいいと思います(2年男子)。

4 成果と課題

- ・3年間実施したことにより、生徒の間に「考査が終わったらクリーンウォークがある。」という意識が身についてきたように感じる。ゴミを拾いながら歩いていると、地域の方から感謝の言葉をいただく機会もあり、生徒の自己肯定感の向上につながっている。
- ・一方で、活動の最中に地域の方と会っても自ら挨拶をすることができなかつたり、地域の方に話しかけていただいても恥ずかしくてうまくコミュニケーションが取れなかつたりする生徒もいる。社会性を身につけ、卒業後の生活にも生かせるように、このように地域と関わる活動を継続することや、学校内での多様なコミュニケーションの機会を作ることが重要である。

学 校 名	山口県立周防大島高等学校久賀校舎
取組のタイトル	救急救命法の講習会
取組の概要	福祉科の生徒が、山口県大島防災センターに出向き、AEDを活用した救命救急法の講習を受講した。

1 取組の内容

(1) 応急手当の意義について理解する。

救急救命士から応急手当の意義を学ぶ。応急手当をすることで救命の可能性を高めることを理解する。

(2) 心肺蘇生法を含めた応急手当の手順について理解する。

人形を用いて、AEDの使用方法を体験する。

2 活動の様子

(1) 応急手当の意義について理解する。

救命救急士から、スライドを用いての講習を受ける。

(2) 心肺蘇生法を含めた応急手当の手順について理解する。

呼吸の有無の確認方法、気道確保や胸部圧迫など、心肺蘇生に必要な知識と技能を、人形を用いて体験する。はじめに救急隊員から手本を見せてもらい、補助してもらいながら実践する。



(講習の様子)



(心肺蘇生法実践の様子)

3 生徒の感想

- ・心肺蘇生の重要性を知って勉強になった(2年男子)。
- ・胸骨圧迫がうまくいかず苦労した。結構な力をかけないと心臓をマッサージすることができないということを体験できてよかった(2年女子)。
- ・助けを呼ぶために大きな声を出すということが恥ずかしかった。実際にこのような状況に出くわしたときを思うと恐くなった。今回、人形相手とはいえ、練習できてよかった(2年女子)。

4 成果と課題

講習終了後、全員が普通救命講習修了の資格を取得した。日常生活で、同様のケースが生じた場合、迅速に対応することの必要性を認識することができた。

今後の課題として、防災センターへの申込みを生徒会主体で行えなかったことが挙げられる。応急手当の手順だけでなく、こういった防災活動に主体的に取り組むことの重要性も早くから学ばせる必要があると感じた。今回取得した普通救命講習の資格は2年ごとの更新を推奨している。再講習を生徒が主体的に受講するよう促し、継続的な技能の維持に努めるよう指導していきたい。

学 校 名	山口県立岩国高等学校
取組のタイトル	サイクル・スクールリーダー、PTA、警察署による下校時声掛け運動
取組の概要	1・2年生の風紀委員と生徒会の生徒、PTA及び警察署員が、下校時に正門で自転車施錠のためのワイヤー錠と「鍵かけを訴えるチラシとティッシュ」を配付し、自転車盗難防止と交通安全を呼びかけた。

1 取組の内容

(1) 実施の主体・対象、実施内容の概要、実施の時期

本校は自転車通学生の割合が58%と高いことから、交通安全指導に取り組むとともに、岩国警察署の「自転車鍵かけコンテスト」に参加するなど、防犯指導にも取り組んでいる。今年度は11月25日(火)の生徒下校時に、本校PTA役員(6名)、教職員(5名)及びサイクル・スクールリーダー(1・2年生の風紀委員と生徒会役員35名)が、岩国警察署員(5名)と連携し、交通安全と防犯のための声掛け運動を実施した。具体的には、下校する生徒に、正門で自転車盗難防止のための二重ロックワイヤー錠を配付するとともに、「自転車にはきちんと鍵をかけましょう。」「交通安全に気を付けて帰ってください。」などと呼び掛けた。

(2) 実施までの準備

岩国警察署が、本校駐輪場における自転車施錠状況の点検を実施したところ、4台に1台が無施錠であった。このため、岩国警察署生活安全課と対策を協議するとともに、PTA常任委員会でも検討した結果、警察、PTA、生徒合同の下校時声掛け運動を行うこととした。

2 活動の様子

(1) ワイヤー錠配付

1・2年生の自転車通学生にはワイヤー錠を、その他の生徒にはチラシとティッシュを配付した。定期考査週間のため部活動がなく、一斉下校なので容易に配付できた。約30分間活動した。



(活動する生徒・教員・署員) (ワイヤー錠配付の様子)

(2) 安全・防犯の声掛け

交通安全ののぼりを立てて、サイクル・スクールリーダーの生徒が中心となり、交通安全と自転車盗難防止の二重ロックの徹底を呼びかけた。

3 生徒の感想

- ・この活動を経験して、みんなに交通マナーや自転車鍵かけを意識して生活してほしいと思うようになった。自転車は、一箇所ロックよりは二重ロックの方が盗難に遭いにくいので、できれば二重ロックにしてほしいと思う(2年男子)。
- ・みんなが自転車の鍵かけにあまり関心をもっていないのが現状である。だから自転車盗難が起こると思うので、自分のためにもう少し施錠を気にかけて、しっかり鍵かけしてほしいと思う(2年女子)。

4 成果と課題

この取組以降、生徒の交通事故報告は極めて少なくなり、交通安全意識が高まった。また、ワイヤー錠の装着率もほぼ100%となった。今後はワイヤー錠の使用頻度を高めて、自転車二重ロックを励行するように、さらに呼びかけていきたい。

学 校 名	山口県立岩国高等学校坂上分校
取組のタイトル	交通安全に対する地域ぐるみの啓発活動及び防災意識の高揚
取組の概要	登校時に生徒会を中心とした挨拶運動を行っている。また防災アドバイザーによる講演会を開催した。

1 計画の内容

(1) 交通安全見守り活動並びに挨拶運動

本校前の幹線道路は交通量が多いが、横断歩道には信号機がない。また見通しが悪いため横断時の安全確保が必要となっている。そこで、ドライバーと登校してくる生徒に交通安全の啓発を目的に生徒会役員を中心に、朝、見守り活動と挨拶運動を実施する。

(2) 災害ボランティア講演会

本校周辺には「岩国断層」が通っており、避難訓練は行っているものの、生徒の防災意識が低い。危機意識をさらに高めるため、県防災アドバイザーによる講演を行い防災意識の高揚を図る。

2 活動の様子

(1) 交通安全見守り活動並びに挨拶運動

生徒会役員が火曜日、木曜日の週2回と、交通安全期間中は交通委員も交えての交通安全見守り活動を行い、ドライバーと生徒に対し挨拶運動を実施している。



(2) 災害ボランティア講演会

今年度は、生徒の危機意識を高めるため、初めてブラインド方式での防災訓練を行った。

また、東北地方太平洋沖地震でのボランティアを通しての経験談を聞くことにより、さらに生徒たちの意識を高められるよう、県防災アドバイザーによる講演会を実施した。



3 生徒の感想

< 交通安全見守り活動並びに挨拶運動 >

- ・最初は、ただ立って挨拶をするだけで、意味があるのかどうか分からず、特に冬の寒い時期には、正直やりたくないこともあった。しかし、続けていると挨拶を返してくれる人やクラクションを鳴らしてくれる車が増えてきて、やり続けていく気になった(3年生男子、前生徒会長)。

< 災害ボランティア講演会 >

- ・今回の講演を聞いて、自分の中のボランティアの意識ががらりと変わりました。また、いかに災害に対する危機意識がないかということに気が付きました。私は、ボランティアは人のためにしてあげるものだと思っていましたが、自分のできる範囲でお手伝いをさせてもらおうと聞き、人との関わり方をこれからは気を付けていきたいと思いました。

また、「気持ちのいいさわやかな挨拶」を心がけていくことも、ボランティアに通じると聞き、これからはしっかりと挨拶にも取り組んでいきたいと思いました（2年生女子）。

4 成果と課題

挨拶運動並びに交通安全見守り活動は、挨拶を返してくれるドライバーが増え始め、地域住民からの学校に対する評価も高まっている。また、横断歩道の手前でスピードを落としたり、止まってくれる車も増え始めるなど交通安全の意識が向上しており、今後も続けていきたい。防災に関しては、まだまだ危機意識が低く、継続することが必要である。KYT学習なども活用しながら意識が高められるよう指導していく必要がある。

学 校 名	山口県立岩国高等学校広瀬分校
取組のタイトル	小高合同学校安全学習 ～ぼくらは地域の守り隊～
取組の概要	錦清流小学校と合同で大規模災害を想定した避難訓練を実施。高校生が小学生の手を引き、避難所である錦中学校に避難。その機会にあわせて高校生による小学生対象の防犯教室を実施。寸劇形式にすることで小学生の印象に残る訓練となるよう工夫した。

1 取組の内容

(1) 小高合同避難訓練

実施主体・対象

主体……岩国高等学校広瀬分校防災担当、岩国市立錦清流小学校防災担当

対象……岩国高等学校広瀬分校及び岩国市立錦清流小学校の全生徒、児童、教員

実施までの準備

管理職間で、日時等、概略について事前に協議。内容については担当者間で調整。

実施内容の概要

地震発生後、錦川上流のダムが決壊する恐れがあるため避難指示が出たとの想定で、避難場所である錦中学校に近隣の錦清流小学校の児童を支援しながら避難する訓練。地震対応の第1次避難として広瀬分校グラウンドに避難、点呼の後に錦清流小学校グラウンドに避難している小学生の手を引きながら、ともに第2次避難場所である錦中学校に移動。

実施の時期

10月9日(木)第1、2限(8:30~10:10)

(2) 高校生による防犯教室

実施主体・対象

主体……岩国高等学校広瀬分校生徒会 対象……岩国市立錦清流小学校全児童

実施までの準備

広瀬分校生徒会執行部により、小学生対象の防犯教室について調査。小学生向けの効果的な方法として寸劇形式をとることとし、数週間前から台本作成等を準備。

実施内容の概要

「いかのおすし」に焦点を絞り、小学生の参加も促しながら、コミカルにその内容について確認していく。

実施の時期

合同避難訓練における第2次避難完了後

2 活動の様子

(1) 小高合同避難訓練

8:40 両校において安全確保及び避難指示発報。避難行動開始。

8:45 小学校グラウンドに合流。高校2、3年生が小学1、2年生の手を引いて避難の行列を先導。間に小学3~6年生を挟み、高校1年生が最後尾について安全な避難を支援。避難に当たっては、車道側を高校生が歩いた。小学生の不安を和らげながら、整然かつ安全な避難行動が実現できた。

9:05 錦中学校へ避難完了。人員点呼等もスムーズに行われた。

広瀬分校教頭による避難行動に関する総括の講話。緊急避難時における小学生、高校生それぞれの対応の在り方についての確認(この間、防犯教室寸劇に出演する生徒はその準備を行った)。



【避難の様子】

(2) 高校生による防犯教室

9:20 防犯教室「いかのおすし劇場」

ちょっと不注意な小学3年生の女の子、おすしちゃんが下校の際に不審者から声をかけられ、危ない目に遭うところを、妖精と劇を見ている小学生が助けるというストーリー。妖精役の高校生の呼びかけに小学生も全員大きな声で返しており、全員参加による楽しく、かつ印象に残る防犯教室となった。



【いかのおすし劇場】

9:35 にしき安全パトロール隊隊長による総括

不審者、動物等に対する安全確保について。

9:40 小学校校長による学校安全研修全体についての総括

学校安全3領域のそれぞれの内容について、研修全体を振り返りながら注意事項等を確認。終了後、各校教員が引率して帰校。

10:10 帰校完了

3 生徒の感想

普段の避難訓練と違い、小さな子どもの命を預かっていると考えると緊張した。災害が起きたときには訓練の成果を生かしたい(2年女子)。

これまでは守られる側という意識が強かったが、弱者を守るという役割が自分にはあるということがわかった。自分の命を守るのは当然だが、できる範囲で他者への貢献ができるようにしたい(3年男子)。

いざというときに今日のような行動がとれるかどうか不安はあるが、こうするものだということを体験し、知ることができた。もしもの時があれば、この経験を生かしたい(3年女子)。

どのようにすれば小学生にうまく伝わるかをみんなで考えていく中で、社会の中に潜む危険や、防犯上の弱者の存在について知ることができた。自分に関係ないと無関心でいるのではなく、いろいろなところに関心をもつことが必要だと思った(2年男子)。

4 成果と課題

(1) 成果

従来から伝統行事の茶摘みや体育祭等、さまざまな活動において、家庭、学校、地域が一体となった地域社会総がかりの教育を進めていることもあり、避難訓練についても自然な流れで実施できた。地元小学校との連携により、校内における従来型の避難訓練だけではできない、地域との連帯感を感じる体験ができています。そのため、生徒の感想にあるとおり、自他の安全の確保、支援者としての役割等について意識の変容が見られており、高校生の防災意識は高まっている。複数のメディアで取り上げられたこともあり、保護者や地域からも高い評価を得ている。

(2) 課題

前年度に引き続き、2度目の実施となった。前年度は避難行動のみの実施であったが、今年度はその機会にあわせ、防犯教室を設定することで、安全学習の場にもなった。次年度は、例えば社会福祉協議会と連携するなど、学校間のみならず、より広い範囲で地域の団体等と連携した活動の実現を図り、地域全体の防災意識の向上につながるような仕掛けができればよいと考えている。

しかし、人数が多くなれば準備等にかかる負担が大きくなり、臨機応変な対応等が難しくなり、機動性を欠いてしまうことも懸念される。大げさになり過ぎないように、それでいて地域の方々の意識の啓発に資するような方法について検討する必要がある。

学 校 名	山口県立岩国総合高等学校
取組のタイトル	自転車の鍵かけ運動
取組の概要	自転車通学生が多い中、交通安全への取組とともに、防犯の立場から駐輪場を中心とする場所で、自転車の鍵かけ運動を展開した。

1 計画の内容

(1) 自転車鍵かけ運動

本校では自転車通学の生徒に対して、生活委員と担当教諭による自転車整備点検を行っているが、本年度はそれに加えて、自転車の鍵かけ運動を実施した。折しも岩国市内では自転車の盗難が多発している現状があり、岩国警察署も自転車の盗難防止のために、鍵かけ運動を展開するとのことで、それに協力する形で運動を実施することとなった。

(2) 実施準備

岩国警察署が展開する「自転車鍵かけコンテスト」に呼応して、本校でも自転車鍵かけ委員を生徒会、生活委員の中から3名選び、その他の生活委員と一緒に日頃の交通安全の呼びかけとともに、学校の駐輪場、登校中の生徒に対して呼びかけを行った。

(3) 実施の概要

9月24日～26日の3日間、秋の交通安全週間に合わせて登校中の生徒に対して本校駐輪場にて呼びかけを実施することとした。また、これに伴って岩国警察署に相談したところ、担当の方も初日は参加可能ということで、一緒に呼びかけに参加していただくこととした。

2 活動の様子

(1) 9月24日(初日)

7時50分から岩国警察署の担当と生徒13名による「自転車鍵かけ運動」の呼びかけを自転車置き場、通学路で行った。その際、岩国警察署に用意していただいたチラシを一緒に配付した。また、自転車置き場では実際に鍵をかけているかどうかを確認した。警察署の方の参加もあり、参加した生徒の日頃よりも積極的な声掛けを行った。



自転車通学生への呼びかけ(通学路)

(2) 9月25日・26日

初日と違い警察署からの応援はなくなったが、2日目は8名が参加した。1日目に引き続き参加生徒が周囲を引っ張る感じで、ポスターの配付などをし、積極的に呼びかけを行った。また1日目に比べると、自転車置き場で自ら鍵をかけてくる生徒が増え、一定の効果を感じた。3日目も同様に10名が参加し、3日間を通して参加した生徒が4名おり、その生徒たちが前日、前々日同様に周囲を引っ張り、呼びかけを行った。



自転車通学生への呼びかけ(駐輪場)

3 生徒の感想

- ・最初は恥ずかしいと思っていたが、積極的に呼びかけることができた(呼びかけに参加した3年男子)。
- ・朝早くていやだと思っていたけど、みんなで呼びかけると案外楽しくできた(呼びかけに参加した2年女子)。

- ・実際に鍵をかけるようになった（自転車通学の2年女子）。
- ・うっとうしかったけど鍵をかけた（自転車通学の1年男子）。

4 成果と課題

この取組で本校の駐輪場における施錠率は確実に向上した。生徒は当初、朝早くから集合し呼びかけることへの恥ずかしさを示していたが、実際に参加してみると、そのようなことも忘れて、一生懸命に取り組んでいた。今後は、生徒会や委員会活動の中で、生徒自身による自主的な取組や、本校の中だけにとどめるのではなく、地域や近隣小中学校への呼びかけや、地域の人との連携による呼びかけなどにも取り組んでいければと考えている。

学 校 名	山口県立高森高等学校
取組のタイトル	1 学年生徒による防災講演会
取組の概要	1 学年生徒が、LHRの時間を用いて、災害ボランティア活動を体験した本校教諭の講演会を企画・運営し、被災地の復興の現状や災害に対する備えの重要性を理解することを通して、防災意識を高める。

1 取組の内容

(1) 実施主体・対象

実施主体：1 学年生徒会役員 対象：1 学年生徒全員

(2) 実施までの準備

生徒会による計画立案 講師の依頼 防災意識調査の作成・実施

(3) 実施内容の概要

1 年生を対象とした「防災意識調査」の実施 「防災意識調査」の結果報告
「防災講演会」の実施 振り返り

(4) 実施時期

平成27年1月29日（木）15:00～15:45

2 活動の様子

(1) 1 年生を対象とした「防災意識調査」の実施（事前）

1 年生の防災意識の現状を把握するために、1 年生の生徒会役員が、1 年生全員を対象とした「防災意識調査」を作成し実施した。

質問項目 「家庭でどのような防災対策を行っているか。」・「災害伝言ダイヤル番号について知っているか。」・「山口県防災情報メールについて知っているか。」

(2) 「防災講演会」（当日）

「防災意識調査」の結果報告

「防災意識調査」の結果から、本校1 年生の防災意識の低さが明らかになったため、防災に対する意識を高くもつ必要性について、生徒会役員が呼びかけを行った。

また、災害伝言ダイヤルや山口県防災情報メールの働きについても、資料をもとに説明し、周知を図った。

「防災講演会～災害ボランティア活動をとおして～」

講師：高森高校 舩富 純一 教諭

平成23年以來、宮城・京都・和歌山・広島・島根（津和野）・山口（山口市阿東・和木町）などの災害ボランティア活動に参加。

実際にボランティア活動を行う際に使う帽子、作業着を着用して登場した舩富教諭の講演は、たくさんの現地映像を交え実体験に基づいており、現実感あふれる内容であった。そのため、全国各地の被災地の状況やボランティアを行う際の真剣な活動の様子などが、生徒にも十分伝わったように思う。



講演の様子



生徒による防災意識調査の結果報告の様子

振り返り

時間の最後に本時に学んだことや感想を記入し、振り返りを行った。

3 生徒の感想

- ・防災意識調査の結果では、予想以上に防災に対する関心が低かったのですが、講演を聞いて、少しは防災について関心をもってくれたので、よかったです。また来年も、少し違った視点で開催できたらいいと思います（主体となって活動した女子）。
- ・防災というものは受身ではなく、自分から積極的に行動するものだということがわかりました。今回の話を聞いて、防災のことに対する意識が高まりました。いざというときには落ち着いて迅速に行動できるよう心がけたいです（男子）。
- ・今日の講演会を聞いて、災害の恐ろしさと同時に災害後の大変さなども学ぶことができました。自分の家は災害が起きた時のための準備や緊急時の連絡方法、集合場所など何も決めてないし、対策もとっていないので、きちんと家族と話し合っておきたいと思いました。それから、災害用の伝言ダイヤルというものがあるのを今日初めて知ったので、「171」という番号はいざという時のためにきちんと覚えておきたいです（女子）。
- ・先生の話聞いて、災害に対する自分の意識の薄さと、自分の意志で一步踏み出す勇気の大切さを痛感しました。どこか他人事のように思っていた災害も、ちゃんと考えてみようと思いました（女子）。

4 成果と課題


(1) 成果

防災に対する正確な知識の乏しさと意識の低さ、災害が身近なものであることを自覚し、防災に対する意識を強くもつことの必要性を生徒に伝えることができた。

ボランティア活動のみならず、何事に対しても一步踏み出す勇気をもつことが大切だという意識付けができた。

(2) 課題

今回1学年のみの取組であったものを、学校全体の取組に広げ、学校全体の防災に対する意識を高めていくこと。

学 校 名	山口県立岩国商業高等学校
取組のタイトル	本校交通委員を中心とした交通安全への取組
取組の概要	<p>(1) 本田技研工業(株)安全運転普及本部と交通委員が連携して、全校生徒を対象にした交通安全教室を実施した。実際に自転車を運転し、自転車の危険なスピードや徐行運転などの実技指導も行った。</p> <p>(2) 岩国警察署主催の「中・高校生による自転車鍵かけコンテスト」に参加。推進委員を中心にポスターの掲示や呼びかけなどを行った。</p>
<h3>1 計画の内容</h3>	
<p>(1) 交通安全教室の実施 本田技研工業(株)安全運転普及本部と交通委員が協力し、全校生徒を対象にした交通安全教室を実施した。今回の交通教室は「座学」と「実技」を取り入れた形式で行った。「座学」はルールやマナーといった基礎的な内容から始まり、自転車交通違反の罰則や交通事故に遭遇したときの対応など、実際に起きた例を取り上げ、実践的な内容のものになった。「実技」では生徒が実際に自転車を運転し、歩行者役の生徒の横を通行した。歩行者が自転車をどのように感じているのかを体験した。</p> <p>(2) 「自転車鍵掛けコンテスト」への参加 岩国警察署主催の「中・高校生による自転車鍵かけコンテスト」に参加した。岩国市内は自転車の窃盗が多く、被害に遭った自転車の多くが無施錠という状況であったため、少しでも自転車窃盗の被害を防ぐために参加した。</p>	
<h3>2 活動の様子</h3>	
<p>(1) 交通安全教室 実技指導では体育館の中心にシートを張り、交通委員に自転車を運転してもらった。シートを歩道に見立て、歩行者役の生徒の横を自転車で通行してもらった。 通常スピード(15km/h程度)では、歩行者役の生徒から「怖い。」「危ないと感じた。」といった感想が出た。一方、徐行走行(5km/h)では「何も感じない。」という感想であった。実技体験を通して、歩行者はスピードが速い自転車に恐怖を感じるということを実感した。全ての生徒が体験したわけではないが、スピードの速い自転車が歩行者役の生徒の横を通過したとき、歩行者役の生徒がよけたり、驚いている様子を見ることができた。実技を体験できなかった他の生徒も、自転車の速度によって、歩行者の感じ方が違うということを理解することができた。</p>	
<p>(2) 「鍵かけコンテスト」 交通委員を「自転車鍵かけ推進委員」に指名し、本校駐輪場での呼びかけやポスター掲示で啓発を行い、自転車の施錠を定着させた。</p>	
<h3>3 生徒の感想</h3>	
<ul style="list-style-type: none"> ・イヤホンで音楽を聴いて運転したが、「止まれ」という声が全く聞こえなかった。音楽を聴きながらの運転は危ないと思った(3年男子)。 ・今回の交通教室で歩行者側の立場にたったが、自転車は凶器になりうると思った。今まで、歩行者のことを考えて運転したことがなかったので、今後気をつけるようにしたい 	

(3年女子)。

4 成果と課題

外部講師による交通安全教室や交通委員の活動を通して、自転車事故の減少や、無施錠自転車が減少するなどの成果が上がった。来年度の課題は、より生徒が主体的に活動できる環境づくりである。生徒が日常の問題を主体的に考えるよう、生徒に課題を投げかけ、日常の問題を生徒が考え、生徒に伝えていく取組を引き続き実践していきたいと考えている。

学 校 名	山口県立岩国商業高等学校東分校
取組のタイトル	定時制普通科生徒を対象とした防災授業
取組の概要	学校設定科目である「現代社会探究」の授業において、生徒が地震について学習するとともに、自然災害に遭遇した際の注意点や、地震対策について自ら考え、いざというときに主体的に行動できるよう工夫した。

1 取組の内容

(1) 災害を知る(その1)授業

7月：大地震が起こったときにどのように行動するか、自作プリントや県教委作成のKYT資料を用いて学習する。また、プロジェクトXのDVDを用いて平成5年の鹿児島豪雨災害時に多くの人命を救った警察官の話(「絶体絶命650人決死の脱出劇」)を視聴した。

(2) 災害を知る(その2)授業

8月：広島や岩国で豪雨災害が発生したことを取り上げ、生徒の身近なところで起こった出来事についてお互いに情報交換しながら、避難所での生活の大変さを具体的にイメージし、もし、自分たちがボランティアで避難所の手伝いに行くとしたら、何を持参するか、また、何をして人々の役に立つことができるか考える。また、9月1日の防災の日 にふれ、関東大震災について学ぶ。

(3) 災害を知る(その3)授業

10月：映画「マリと子犬の物語」を視聴。地震の恐ろしさとともに、人命救助活動の現場では、ペットや家畜が置き去りにされてしまう厳しい現実があることを学ぶ。また、復旧作業中の山古志村で実際にロケが行われたエピソードなどにふれ、地元の人々が大勢エキストラとして参加するなど、復興への強い思いが込められた作品であることに気づく。

(4) 災害を知る(その4)授業

11月(本時)：黒板に貼られた「岩国市ゆれやすさマップ」とプリントを用いて、各自の避難場所や連絡方法などを確認し、それぞれが今からできることは何かを自ら考え、いざという時には主体的に判断し、行動する自分の姿をイメージした。

2 活動の様子(11月の授業内容)

(1) 「岩国市ゆれやすさマップ」に各自の自宅を付箋で貼り、地図の色分けから自宅付近の想定震度を読み取る(写真参照)。

(2) (1)のマップに記載されている避難場所一覧の中から、各自の自宅から一番近い避難場所を読み取る。

(3) 想定震度はどの程度の揺れなのか、「地震と揺れ等の状況(概要)」の中から状況を読み取る。

(4) (3)の震度は以前鑑賞した映画、「マリと子犬の物語」(平成16年新潟県中越地震を基に作られた映画)とほぼ同じ震度であることから、映像を思い起こして、大変な状況であることをイメージする。



(授業のようす)

- (5) 大規模な地震に見舞われたとき、避難情報や自然災害情報がメールで入手できるように岩国市防災メールのアドレスをプリントに書き写す。
- (6) NTTの災害用伝言ダイヤルによって家族の安否確認などができることを知り、伝言の録音・再生の仕方を学ぶ。
- (7) 実際に地震が起きたとき、自分をもっとも注意する点は何かを考え、文章にする。
- (8) 「わが家の安全対策」の例を見て、自分の家でもすぐできそうなことはどれか指摘する。
- (9) 今回の地震対策の授業から何を感じ、何を学んだかを振り返り文章にする。

3 生徒の感想

- ・自分でできそうなことは進んでやろうと思った。万が一何かがあった時に備えて非常時持出品を準備する(2年女子)。
- ・(地震は)いつくるかわからないから、しっかり対策を考えておかないといけないと思った(2年男子)。
- ・いざというときには、人に頼らず、自分で自分の命を守ることを最優先に考えたい(2年女子)。
- ・地震も怖いけれど、津波は死者が増えるのももっと怖いと思う(2年男子)。
- ・非常持出品を日頃から準備しておこうと思いました。自分の身は自分で守れるようにしようと思いました(2年女子)。
- ・何事も起こってからでは遅い、でも、起こってからでないと分からない。恐いな～(2年女子)。
- ・私は災害が起きて少しでもおさまったら、きっと携帯電話の充電器などを家の中などに急いで取りに行くなど、してはいけないことをするかもしれないので、命を守ることを第一に考えて行動したいと思った(2年女子)。
- ・家具などが倒れないように、しっかり固定しようと思いました。また、みんなが避難場所を知っておかないといけないと思います(2年男子)。
- ・まず、非常食などを準備したいと思いました(2年男子)。
- ・ちゃんと家族と話し合ったりしておかないといけないと思った(2年女子)。

4 成果と課題

はじめのうち生徒の感想として多かったのは、「大きな地震にあった経験がないので、何をしたらよいかわからない。」というものであった。そこで、巨大地震のシーンが真に迫っている映画「マリと子犬の物語」を見せたところ、「これは大変だ。」、「何か準備しておかないと実際に地震が起こってからでは、パニックになって動けなくなる。」といった感想が増え、平穏な生活が営めるうちにしておくことは何か、ということに興味・関心が高まった。

この授業を通して多くの生徒に、「自分の命は自分で守る。」という意識が芽生えてきたことが、一番効果があった点ではないかと思う。以前と比べると、明らかに防災に対する意識の変容が見られた。また、生徒の中には、大規模な自然災害などにより、万一家族がバラバラになったときの集合場所は岩国駅とあらかじめ家族で決めてあるといった意見もあり、驚かされた。

課題としては、緊急避難時に持ち出す各自の非常袋についてさらに研究させたい。また、防災についてそれぞれの家庭でじっくり話をさせたいと考えている。

学 校 名	山口県立岩国工業高等学校
取組のタイトル	平成26年8月6日の岩国市大雨被害について
取組の概要	今夏8月6日(水)の記録的な大雨により、岩国工業高校周辺を含め岩国市全体が大変な被害を受けた。そのことについて調査し、どのくらいの規模だったのかを把握、認識して、再度大雨が来た場合についての避難、安全の確保について調べる。

1 計画の内容

- (1) 生徒会活動として行い、岩工祭(11月22日(土)実施)において発表する。
- (2) 降雨量、大雨被害状況、岩国市ハザードマップの3つをテーマとする。
- (3) 生徒会14名が3つのグループに別れて、それぞれのテーマを担当する。

2 活動の様子

(1) 準備

平成26年8月6日岩国市大雨被害について、3つのグループの担当を決定。
活動予定の日程を確認。
各グループにおいて、必要な情報をインターネット等を使い調査する。
大判用紙に、グループごとに調査した内容をもとに発表用掲示物を作成する。
例年に比べ降雨は、

- 「どのくらいの規模であったのか。」
- 「大雨は事前に予測できていたのか。」
- 「岩国工業高校にいた場合は安全なのか。」
- 「同規模の大雨が降った場合に気をつけておくべきことは何か。」をまとめる。



(2) 発表

岩工祭で、教室の廊下に展示し、地域の方々、保護者、生徒に見てもらうことができた。



3 生徒の感想

- ・私達生徒会は、岩工祭で岩国の豪雨災害について調べ展示しました。災害を調べていくなかで、どういう被害だったのか、どのくらいの規模だったのかを深く知ることができました。この企画により、災害を強く意識するようになり、いつ起こっても対応できるようにしなければと思うようになり備えをきちんとしたいと思いました。いろいろな人に災害について知ってもらおう企画でしたが、私達自身が災害を強く考えさせられよかったと思います(3年男子)。
- ・災害の大きさに驚き、自然災害の怖さと対処方法の大切さを知りました。上手くまとめた展示を読んで、いつ起こるかわからない自然災害の恐ろしさを知ってよかったし、いろいろな人に岩工祭の企画として見ていただけてよかったです(2年男子)。

4 成果と課題

(1) 成果

活動を通じて、生徒たちが大雨災害の実態と被害の甚大さを知ることができた。岩工祭（文化祭）という場を活用した安全に関する初めての取組であったが、多くの方々に改めて身近で起きた災害のことを知ってもらう点において意義があったと思われる。また、当時の写真や地図を効果的に活用することで、文字だけでは表せない危険性を示すことができた点も評価できると考えている。

(2) 課題

岩工祭の他の企画もある為、結果的には、発表資料を作成する活動期間が十分にとることができず短くなってしまった。当日は展示することが精一杯の状況となってしまう、生徒に主体的に活動させることができなかった。発表・活動を広げていくことが、今後の課題である。

学 校 名	山口県立柳井高等学校
取組のタイトル	自転車の交通安全
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車交通安全教室 ・自転車点検

1 計画の内容

- (1) LHRの時間に市警察署から講師を招へいし、実践的な自転車の安全指導を行う。
- (2) 生徒会の交通委員〔全学年〕が通学用自転車の不良箇所を点検し、改善を求める。

2 活動の様子



交通安全教室講話



交通安全教室自転車実地指導



自転車点検メンバー



チェックをする3年生



チェックをする2年生

3 生徒の感想

自転車安全運転教室は、専門の講師を招いて体育館で自転車の運転を実際に代表の生徒が行うことで、具体的によく理解できるという感想が多かった。また、自転車の運転者も加害者になり得るし、多額の賠償金を請求された例もあるということで、自転車も車なのだという点が広く確認された。

自転車点検では、本校では際立った自転車の改造や整備不良がほとんど見あたらないことが分かった。点検を実施した生徒にとっても納得のいく結果といったところであったと思われる。

4 成果と課題

安全教室を受講する姿勢や自転車点検の結果から、本校生徒の自転車についての安全意識はおおむね良好と判断してよいと思われる。また日常的な登下校の様子を観察しても、同様に良好な状況であると言える。

課題としては、とりわけ登校時に時間の余裕をもち、スピードの出し過ぎ等の危険な行為をなくすよう、指導を充実し、また日没後の生徒下校について、想定される危険箇所を明らかにし、関係諸機関にも働きかけて、改善を促していけるよう努めたい。

学 校 名	山口県立柳井商工高等学校
取組のタイトル	生徒と教員の信頼の懸け橋となる交通安全指導
取組の概要	生徒総会での交通委員長からのメッセージ（心の呼び掛け）、交通委員・風紀委員・PTA役員による自転車点検とあいさつ運動の実施

1 取組の内容

(1) 情操教育（心の教育）の推進

5月 生徒総会：交通委員長から全校生徒にメッセージ（心の呼び掛け）

交通委員長のメッセージ（抜粋）

「皆さんは、なぜ周東病院前交差点で毎日二人の先生が挨拶と交通指導をされているか、疑問に感じたことはありませんか、・・・」

「毎日、私たち生徒の安全のために、どのような天候の日でも通学路に立ち続けている先生方に、気持ちのいい挨拶をするべきではないでしょうか。皆さんはこのことをどう考えますか。」

「大切な人（友達）を事故で失わないために、安全に向けたあらゆる取組を私たちがやるべきではないでしょうか。」

(2) 交通委員による事前自転車点検

毎学期の自転車点検の前に、各学年の交通委員が予備点検を実施する。

違反のある自転車の保有者に、点検日までに違反箇所を改善・修理するよう伝える。

(3) 交通委員とPTA役員との合同あいさつ運動と自転車点検

（ハンドル形状・ステッカー・反射板等）

毎月初めに、PTA役員と交通委員による合同あいさつ運動と、簡単な自転車点検を実施する。

(4) 風紀委員会のあいさつ運動と自転車点検

毎月5の付く日に、風紀委員があいさつ運動と、簡単な自転車点検を実施する。

2 活動の様子



生徒総会



自転車点検

3 生徒の感想（一部抜粋）

- ・「先生方が、私たちのために毎日二人、横断歩道前に立っているということを知り、それだけ生徒のことを大切に思ってくれていることを実感した。同時に、服装等についても厳しく指導されるのも、将来の私たちのことを考えてのことだということに改めて感じた。」
- ・「交通委員長が言ったことは、とても良いことだと思う。感動しました。」

- ・「元氣な挨拶をしたいと思います。」
- ・「先生が道路に立っていなくても、自分たちがしっかり交通ルールを守り、自覚をもって気を付けることが一番だと思います。生徒会や交通委員会のあいさつ運動・交通安全の見守りは素晴らしいと思う。」

4 成果と課題

学校安全に対する生徒の意識を高めるため、生徒の情操に働きかけたことは大きな成果へと結び付いた。

交通委員が予備自転車点検を行い、PTA役員と合同の自転車点検、風紀委員による毎月の自転車点検により、より効果的な点検を行うことができた。

また、あいさつ運動についても、PTA役員と連携して実施することで、内容がより深まった。

このように、学校安全教育の取組として始めたことが、生徒会活動やPTA活動を活性化するとともに、生徒・保護者・教職員の絆^{きずな}をより一層強めていった。

今後の課題は、生徒自らのさらなる安全意識の高揚と交通事故防止対策の充実に向け、教職員が、より積極的に協働しながら実践していくことである。

学 校 名	山口県立熊毛南高等学校
取組のタイトル	春の交通安全キャンペーン
取組の概要	交通安全委員と生徒会の生徒が、学校入り口前に立ち交通ルールを厳守するよう呼びかけを行った。

1 取組の内容

「春の交通安全キャンペーン」と称し、交通安全委員（18名）と生徒会執行部（12名）が、委員会活動の一環として交通安全を推進する計画を立てて実施した。

- (1) 日時：平成26年5月20日(火) 8:00～8:20
- (2) 内容：学校入り口と校門前での交通安全の呼びかけ
クリアファイルと反射板の配布。

2 活動の様子

(1) ドライバーへの呼びかけ

スピードダウンを呼びかけるのぼりを持った生徒が、学校の入り口付近を通行する車に交通安全の呼びかけを行った。

本校の入り口付近は狭い道にもかかわらず、朝方は交通量も多く、かなりスピードを出して運転しているドライバーがいる。右左折時に歩道にはみ出してくる車もあった。ドライバーへの呼びかけを通して、参加した生徒も交通安全を意識する活動となった。



(呼びかけの様子)

(2) クリアファイル・反射板の配布

自転車で登校する生徒に昨年12月に改正された道路交通法が、イラスト付きで説明してあるクリアファイルと反射板を配付した。

クリアファイルは自転車の右側通行が禁止であることがわかりやすく説明しており、自転車通学生の交通マナーアップを啓発する活動となった。



(クリアファイルの配布)

3 生徒の感想

- ・このような活動を続けていくことでドライバーの交通マナーが改善していくと嬉しい。今後も続けていきたい(3年男子)。
- ・自転車通学生に対してパンフレットを配付していくことで、登下校時の交通マナーが改善していくと思った(3年女子)。

4 成果と課題

今回の活動を通して、生徒の交通安全に対する意識が高まったようである。またドライバーや自転車通学する生徒への呼びかけで、一定の効果があったと思われる。今回のような活動を今後も継続実施することで、生徒の意識向上を図り、交通ルールの遵守及び交通事故防止につなげていくことが必要である。

学 校 名	山口県立田布施農工高等学校
取組のタイトル	有志生徒による交通安全の呼びかけ
取組の概要	運動部に所属する生徒が中心となって、交通安全運動の期間中に地域の方に交通安全の呼びかけを実施した。

1 計画の内容

学校のある田布施町内の交通量が多い交差点において、春の全国交通安全運動、夏の交通安全県民運動、秋の全国交通安全運動、年末年始の交通安全県民運動、各期間中1日ずつ計4回ほど、交通安全の呼びかけを実施している。生徒会の交通委員が主体となって、各部の部長に呼びかけへの協力を依頼しており、毎回100名を超える生徒・教職員が参加する。柳井警察署や交通安全協会の協力もあり、期間中の恒例イベントとなっている。

2 活動の様子

(1) 時 間

各交通安全運動期間中の1日で実施 午前7:45～8:05

(2) 場 所

田布施町内スーパー（ピクロス）前交差点

(3) 参 加 者

生徒約110名（全校生徒466名）、教員約15名

(4) 参加形態

交通委員の呼びかけのもと、各部から任意で参加

(5) 外部協力

柳井警察署、柳井市交通安全協会

(6) 活動内容

平日の朝、交通安全の旗や横断幕を持って交通安全を呼びかけている。生徒は列になり、車に乗っている方々に「おはようございます」というあいさつをする。100名を超える生徒が参加していることもあり、盛り上がりのあるイベントとなっている。各部が部の活動の一環として参加しており、各部が地域とのつながりや地域社会への貢献を考えるよい機会になっている。



3 生徒の様子

恒例のイベントとなっており、自発的に取り組んでいる生徒が多い。好ましいあいさつの仕方やマナーについて特に指導はしておらず、部顧問の指導に委ねている部分が多い。男子生徒と女子生徒の割合は6:4である。女子生徒は文化部に所属している割合が大きいため、運動部からの参加が多いことが参加者数の男女差の理由となっている。

4 成果と課題

本校では、生徒指導上の課題として、礼を正す姿勢を身につけさせることに取り組んでいる。そのため、あいさつについては自然に行える生徒が多い。この交通安全の呼びかけは、あいさつを通じて地域社会とつながりをもつよい機会なので、今後も続けたいと考えている。生徒が、地域社会に支えられていることに感謝しつつ、交通安全について働きかける姿勢が必要であると考えている。各部が、練習以外の社会的活動について考えるよい機会にもなっている。文化部からも更に参加が増えるように工夫したい。

学 校 名	山口県立光高等学校
取組のタイトル	生徒一人ひとりの安全意識を高めるための「光高校安全宣言」
取組の概要	生徒会が中心となって、安全に関して生徒の意識を高める言葉や防犯、防災についての注意を促す言葉を募り、「光高校安全宣言」を作成する。

1 計画の内容

(1) 安全宣言の募集(12月上旬)

- ・安全宣言募集の学級掲示用ポスターを作成する。
- ・生徒会が各クラスの評議員を集め、安全宣言について意図や目的を説明する。
- ・各クラスの評議員がクラスの生徒に安全宣言について説明し、「安全に関して生徒の意識を高める言葉」や「防犯・防災についての注意を促す言葉」を募集する。

(2) 安全宣言の作成

- ・集まった言葉を生徒会が集約し「光高校安全宣言」を作成する。

(3) 安全宣言の宣言(2月上旬)

- ・大判用紙に「光高校安全宣言」を書き宣言の準備をする。
- ・全校生徒の前で生徒会が「光高校安全宣言」を宣言する。

(4) 安全宣言の定着(今後の活動)

- ・校内にポスターを掲示する、呼びかけ運動をするなど安全宣言の普及活動をする。

2 活動の様子

(1) 安全宣言の募集

教室に各クラスの評議員を集めて生徒会長を中心に生徒会執行部が「光高校安全宣言」について説明をした。各評議員は教室掲示用のポスターをクラスに持ち帰り、クラスの生徒に安全宣言の募集を呼びかけた。



(2) 安全宣言の作成

各クラスの評議員がクラス内で出た案をまとめて生徒会に提出する。その後生徒会が言葉を集約し、「光高校安全宣言」を作成した。

光高校安全宣言

私たち光高校生徒は安全のためにこの5つの宣言のもと、自らが安全への意識をもって行動することを誓います。

- 一．信号が切り替わる時は無理に渡らず、落ち着いて待つ心もちます。
- 一．自転車のスピードを出しすぎないように努め、危険に対応できる沈着さもちます。
- 一．ながらスマホ、ながら運転をやめ、注意を払う余裕もちます。
- 一．自転車の点検を心がけ、備えの習慣もちます。
- 一．暗くなったら一人で帰らない、用心の心もちます。

(3) 安全宣言の宣言(2月上旬)

体育館に全校生徒を集め、生徒会が「光高校安全宣言」を宣言する。ポスターで「光高校安全宣言」を示しながら生徒会長が以下のような説明を加えて全校生徒に思いを伝えた。



光高校の生徒のほとんどが自転車通学であるため、5つの宣言のうち4つは交通に関する宣言にした。そして1つは防犯に関する宣言である。全校生徒が安全を意識した行動を心がけることで、安全・安心な学校・地域づくりに貢献したい。

(4) 安全宣言の定着(今後の活動)

- ・校内にポスターを掲示し、生徒の目に触れる機会を増やし意識の向上を図る。
- ・登校時に昇降口でのあいさつ運動を兼ねて安全宣言の呼びかけをする。



3 生徒の感想

- ・たくさんの意見の中からどの意見が大切なのかを考えてまとめるのが大変だった。まずは自分たち生徒会が模範となるような行動を心がけ、生徒に呼びかけをして生徒全員が意識できるようにしたい(2年男子生徒会)。
- ・以前から危険な自転車の乗り方をしている友人がいて気になっていた。たくさんの意見をもらったが、交通安全に関する宣言を4つ入れ、「絶対にこれだけは」というものを言葉にしました。これを機に生徒の安全意識が高まり、落ち着いた生活を送ってほしいと思う(2年男子生徒会)。
- ・当たり前ことができているのだなと思った(2年女子)。
- ・自分達が安全に日々を過ごすために守らなければならないことがわかりやすくまとめられている。自分たちで決めたこの安全宣言を生徒一人ひとりがきちんと責任をもって守り、安全に毎日を過ごしていければいいなと思う(2年男子)。

4 成果と課題

生徒に安全宣言の意見を募集し、各クラスで案を出してもらったことで安全について考えさせる良い機会になった。安全に過ごすためにどんなことを心がけることが必要か、どんなことを改善すればよいか、ということを話し合うことで自分の行動を見直す機会になった。

課題は継続して活動を続けるということだ。安全宣言の作成は、安全に対する意識の向上のきっかけでしかない。日頃から安全を意識しているという雰囲気づくりをしていくことで、生徒への安全意識の定着をめざす必要がある。

学 校 名	山口県立光丘高等学校
取組のタイトル	自転車盗難防止・避難訓練
取組の概要	自転車盗難防止 光警察署の指導で生徒会執行部の生徒が地域でキャンペーンに参加した。 避難訓練 光消防署の指導の下、避難訓練を行い、講評の中で東日本大震災の実状を聞いた。

1 計画の内容

(1) 自転車盗難防止

自転車盗難防止については、光駅で自転車の盗難が多く、光警察署からの呼びかけもあり、本校生徒会でキャンペーンに参加することとした。これにより全校生徒の意識を高めると共に地域にも実態を認識してもらい、自転車盗難の減少につながればと考え、1学期末に行った。

(2) 避難訓練

避難訓練を通して、安全で迅速な避難の方法を体験すると共に、火災・地震等の緊急時への対応能力を育成していく。

2 活動の様子

(1) 自転車盗難防止

生徒会執行部7名が光駅において光警察署の方々と盗難防止のビラ配りや声かけ運動を行った。

職員も同時に参加し、地域の方々とコミュニケーションも十分にとれた。



(2) 避難訓練

平常時に地震さらには火災発生を想定して実施している。訓練を実施するということは、安全管理上予告をしているが、それぞれの場面で、生徒、教職員の自主的な判断を求めている。また、光消防署から講師を派遣していただき、御指導いただいた。

3 生徒の感想

(1) 自転車盗難防止

駅でビラを配布したり、声かけをするのは恥ずかしかったけど、地域の人達から「お疲れ様、御苦労さん。」と逆に声をかけられて嬉しかったです(3年女子)。

(2) 避難訓練

東日本大震災のことを災害復旧に参加された職員の方から聞き、私たちはもっと真剣に訓練に取り組まなければいけないと思いました(2年女子)。

4 成果と課題

(1) 自転車盗難防止

年に1回のキャンペーンなので数回実施できるとよいと思われる。生徒の意識の向上はあったと思うが地域、学校、保護者との三位一体の取組が必要である。

(2) 避難訓練

今年度の実施状況を振り返り内容を充実させていきたい。

学校にとって生徒の命を守ることが一番大切である。よって、ブラインド方式の避難訓練を実施するなど、より一層の充実に努め、生徒や教職員の意識向上に努めたい。

学 校 名	山口県立下松高等学校
取組のタイトル	サイクル・スクールリーダーとボランティア生徒による自転車盗難被害防止のための広報活動
取組の概要	警察と市内の中学校、高校が協働して下松駅、商業施設での自転車の施錠調査を実施し、施錠を呼びかけた。

1 計画の内容

(1) 自転車盗難被害防止の広報活動

県警と連携したサイクル・スクールリーダーとボランティア生徒により、本校生徒もよく利用するザ・モール周南において、自転車の施錠調査の実施と施錠の呼びかけた。

2 活動の様子

(1) 自転車の施錠調査

- ・数グループに分け、南側、北側、東側の駐輪場で施錠調査
- ・施錠されていない自転車には、警告の貼り紙と警察より提供された鍵を配布

(2) 自転車の施錠の呼びかけ

警察からお借りした自転車盗難被害防止ののぼりを持ち、ボランティア生徒が施設内外で歩きながら呼びかけた。



3 生徒の感想

場所が商業施設だったので、みんな鍵をかけているだろうなと思っていたが、実際に活動してみると鍵をかけていない自転車が多くてびっくりしました。自転車の盗難は周りの人に気づかれにくいので、自転車から離れるときは必ず鍵をかけるという習慣が多くの人に定着していけばいいなと思いました。一般の来店者の方に自転車盗難防止の呼びかけをする活動も、地域の人と関わることができて良かったと思います。

4 成果と課題

下松市内では、自転車盗難が増加しており、その多くが無施錠で、本校生徒も被害にあっている。そういった折、警察のほうからのお声かけにより下松市内の中学校、高校が協働して、地域で防犯活動を実施したことにより、生徒たちの鍵かけに対する意識も高くなり、非常に意義深い活動となった。

今後もこういった活動を続けたいと思う。

学 校 名	山口県立華陵高等学校
取組のタイトル	サイクル・スクールリーダーの取組 (1) 自転車施錠点検 (2) 交通安全教室実技体験
取組の概要	(1) 各学年 6 名ずつ計 17 名の生徒がサイクル・スクールリーダーとなり、学校内の駐輪場で、自転車の施錠状況を定期的に点検し、自転車盗防止の意識向上を図る。 (2) 警察官による自転車の交通安全指導において、全校生徒の代表として実際に自転車を運転し、安全確認、危険性の認識を行う。

1 計画の内容

(1) 自転車施錠点検

サイクル・スクールリーダー17名、自転車通学生
校内3か所にある駐輪場を確認し、各駐輪場の担当、点検日程、点検票の作成
3か所の駐輪場において昼休みに2名ずつで施錠点検を行い、無施錠の自転車については生徒名を確認し、施錠の意識を高める。
新学期が始まった時期(6月～7月、9月)に実施

(2) 交通安全教室実技体験

サイクル・スクールリーダー8名、全校生徒
日程の確認(9月18日)
交通安全教室において、全校生徒の代表として実際に自転車に乗り、警察官の指示のもといろいろな状況に対応する。

2 活動の様子

(1) 自転車施錠点検

下松署から委嘱された、サイクル・スクールリーダー17名が、2名ずつ昼休み時間中に駐輪場で無施錠の自転車を点検する。
無施錠自転車のステッカー番号を確認し、ステッカー番号一覧表と照らし合わせて該当生徒の氏名を確認し、点検票に記入する。その結果を生徒に通知し施錠意識を高める。



(2) 交通安全教室実技体験

9月18日に学校行事として実施された交通安全教室において、自転車を運転する上での技術的な危険性(二人乗り、傘さし運転)や車の死角等を実際に体験し、全校生徒にもアピールする。



3 生徒の感想

- ・休み時間に実施するので大変だったけれど、無施錠車が少しずつ減少したので良かった(3年男子)。
- ・日頃あまり意識していなかった危険も体験できたので、今後の登下校に生かしたい(3年女子)。

4 成果と課題

- ・市内での自転車盗難の80%が無施錠なので、施錠の意識を生徒自らが高めることができたのは良かったが、実施期間が終了し、3学期ぐらいになると無施錠車が増えてきたのが現状である。できるだけ長く実施したいが、生徒の負担もあるので、もう少し長期的な計画が必要であった。

学 校 名	山口県立下松工業高等学校
取組のタイトル	交通安全意識の向上
取組の概要	生徒会交通係（各クラス 2 名）による交通安全見守り活動及び自転車安全点検

1 計画の内容

(1) 交通係による交通安全見守り活動

登校時に交通安全や交通マナーの向上を目的に、交通安全見守り活動を行う。

(2) 交通係による自転車安全点検

昼休み時間を利用し、自転車の安全点検、学校登録のチェックを行う。

2 活動の様子

(1) 毎週 2 回、7:55～8:25まで、学校 3 方向の交差点に立ち、あいさつ啓発運動、並進・信号無視・斜め横断・ながら運転の防止を行う。

(2) 毎週 1 回、昼休みの12:55～13:15の間に、各駐輪場にて自転車の点検を行う。

ハンドルの変形や施錠の状態の確認、学校による自転車通学を許可された登録車であるかを確認する。

また、ブレーキ・チェーンのたるみ、ライトの点灯、タイヤの空気圧の確認を行う。

(3) 全校生徒の通学用自転車の両輪に、反射板を取り付けた。

下松警察署の協力のもと、夜間の自転車走行が安全になるよう、前後両輪に反射板の取り付けを行った。



(全ての通学自転車に、反射板を取り付けた)

(4) のぼり旗を作成した。

生徒の交通安全や交通マナーの意識向上を目的に、のぼり旗を作成した。



(交通安全見守り活動の時に持って立ちます)

3 生徒の感想

(1) 一般生徒

- ・交通ルールが改めてよくわかった。
- ・学時の並進走行、信号無視などが減った。
- ・事故に対する意識が高まった。

- ・ハンドルを上げたり下げたり、改造している自転車が減った。
- ・定期的な交通安全見守り活動、点検で意識の啓発ができた。

(2) 交通係

- ・挨拶をして返ってくるのがうれしかった。
- ・横断歩道で、自転車を降りてから押して渡る人が増えてよかった。
- ・斜め横断が減少し、事故の心配が減った。

4 成果と課題

生徒主体で、継続して活動すること。

また、学校周辺や登校時だけでなく、いつでもどこでも意識しているか、週1回の点検がなくても、自分たちで意識して自転車の整備ができるかが課題である。

誰かが事故に遭う前に、生徒自らが「気づき」「考え」「行動」できるように、いろいろな取組を続けていきたい。

学 校 名	山口県立熊毛北高等学校
取組のタイトル	交通安全教室・自転車点検
取組の概要	自転車の安全運転にかかわる内容のDVD視聴を中心とした交通安全教室を実施した。その後続いて、校内広場で自転車通学生の自転車点検を行った。

1 計画の内容

(1) 交通安全教室・自転車点検

全校生徒を対象に、1学期の4日間に集中的に各種安全教室等を実施する「学校安全4 Days」と称した交通安全、生活安全に係る取組の一環として、6月10日(火)、交通安全教室・自転車点検を実施する。

どちらの取組も、生徒交通委員会が会場準備や進行など運営の中心となって実施する。また、自転車点検では自転車通学生以外の生徒が点検者となって実施する。

2 活動の様子

(1) 交通安全教室

交通安全教室として視聴したDVDは、自転車乗車中に起こりうる事故のケースや、自転車運転者の社会的責任や運転上の留意点がよく分かる内容であった。

(2) 自転車点検

自転車通学許可登録ステッカーの貼付け状況と、ブレーキやヘッドライトなど車体整備状況を自転車通学生以外の生徒が点検者となって実施した。不備のあった生徒については、保護者宛に点検結果についての連絡票を発行して改善・修理を促し、後日(7月)再点検を実施し確認した。



3 生徒の感想

- ・自転車の運転者も加害者になることがあるということがよくわかった(1年女子)。
- ・点検しないといけない箇所がわかった。みんなの自転車が壊れていなくてよかった。自分の自転車もよく見てみようと思う(1年女子 交通委員)。
- ・普段はなにげなく乗っているが、きちんと点検をしないと危ない。便利でいつも使うものだからこそ、日頃から気を付けていきたい(2年女子)。
- ・来年には自動車を運転しているだろうが、その時にも自転車の行動や起こりうる危険を予測しながら、十分に気を付けていきたいと思う(3年女子)。

4 成果と課題

自転車学校乗り入れ生徒は86名(39.3%)であるが、自宅最寄駅等までの自転車利用生徒が60名(27.4%)おり、全体では146名(66.7%)が通学に自転車を利用している。身近な乗り物である自転車運転の際の安全について、集中的に指導・点検を行ったことで安全意識の高揚につながったと考える。また、自転車通学生以外も点検に係わることで、全生徒に当事者意識をもたせることにもなったと考える。

現在、年間1回のみであるが、継続的・定期的実施することで事故の防止や、自転車整備の維持が期待できる。

学 校 名	山口県立徳山高等学校
取組のタイトル	交通安全教室 「徳山高等学校自転車マナーアップキャンペーン」 交通安全「おはよう」キャンペーン 生徒会ボランティア活動
取組の概要	生徒会を中心に、教職員や関係諸機関の方々と連携しながら、校内外の安全や学校周辺の環境整備に努めた。

1 計画の内容

年間計画に上記の活動を組み入れ、日時・場所・方法等を事前に打ち合わせ、実施

(1) 交通安全教室

4月16日(水) LHRの時間を活用して、全校生徒を対象に周南署による講義、DVD視聴・KYTを実施した。

(2) 徳山高等学校自転車マナーアップキャンペーン

5月8日(木)、7時30分から8時15分にかけて、本校交通委員の生徒、周南署の署員、地域のボランティアの方々、教職員で啓発用チラシの配布や交通ルールやマナー遵守の呼びかけ、自転車通学の生徒の施錠状況の確認を実施した。

(3) 交通安全「おはよう」キャンペーン

4月8日(火)午前7時00分からJR徳山駅前にて、春の交通安全運動の期間に合わせて生徒会執行部の生徒5人が、市関係者、周南署等の方々と合同で、交通安全啓発のキャンペーン活動を実施した。9月22日(月)にも同様の活動を実施した。

(4) 生徒会ボランティア活動

生徒会が主催して、年間4回、定期考査最終日に学校周辺の道路の清掃活動を実施し危険箇所等の確認と改善の取組を行なった。参加者は、自発的に募り、約100名の生徒が参加する。

2 活動の様子



(徳山高等学校マナーアップキャンペーン)
(サイクル・スクールリーダー活動の一環)の様子



(生徒会ボランティア活動の風景)

3 生徒の感想

自分の身は自分で守らなければならないことの大切さを自覚したという感想をもっている生徒や、それにとどまらず他者の安全に配慮したマナーやルールを遵守することに対する意識が高まったという感想がみられた。

4 成果と課題

幸いにして生命に関わるような被害事故や加害事故は発生していない。

自転車盗難被害防止のための施錠の状況も改善している。

生徒会ボランティア活動により地域の方々の本校生徒に対する評価が高まり、さまざまな場面において協力的な雰囲気醸成が醸し出され、地域との関係が深まった。

課題としては、今後、地域の人々との協力的な関係と、生徒自身の自主性を尊重した活動とをどのように調和させた活動を推進していくかという点が課題である。また、本年度は通学区域で不審者情報も多く、被害防止のための具体的な方策の必要性も高まっている。

学 校 名	山口県立徳山高等学校鹿野分校
取組のタイトル	防災意識を高める
取組の概要	生徒会の生徒が学校や学校周辺の防災について、生徒・教職員に説明する。プレゼンや土砂災害ハザードマップなどを使用し、わかりやすい説明を心がけた。
1 計画の内容	
(1) 対 象	1. 2年生生徒・教職員
(2) 実施時期	3学期
(3) 実施内容	土砂災害ハザードマップやプレゼンによる防災学習
2 活動の様子	
(1) 生徒会による土砂災害ハザードマップ作り・展示	
	
(2) 全校生徒・教職員への発表	
3 生徒の感想（生徒会）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が土砂災害特別警戒区域であることを初めて知った（1年男子）。 ・ハザードマップを制作していく中で、学校周辺の地域が土石流の危険個所であることがわかり、災害がより身近なものに思えた（2年女子）。 ・今回の活動で、災害に備える大切さがよく理解できた（2年男子）。 ・指定避難所がよくわかったので、家族にも説明したい（2年男子）。
4 成果と課題	
	<p>学校の危険個所がよく理解でき、今後の防災訓練に生かすことができる。</p> <p>地域の防災状況や避難場所について理解を深めるために、積極的に地域との交流を進めていきたい。</p>

学 校 名	山口県立徳山高等学校徳山北分校
取組のタイトル	須々万地区の土砂災害危険箇所調査
取組の概要	地区の自治会主催の防災訓練参加、須々万地区の土砂災害危険箇所の情報収集や巡検を行い、地図にまとめ、その取組を校内で発表、地域へ発信した。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 実施の主体 「総合的な学習の時間」のグループ(1～3年の10名)の生徒</p> <p>(2) 実施内容の概要 土砂災害の種類としくみ、過去の土砂災害の調査 須々万地区の土砂災害危険箇所の情報収集 須々万地区防災訓練(自治会連合会主催)に参加(7月) 須々万地区の土砂災害危険箇所の巡検調査(6月、11月) 須々万地区の特別警戒区域の地図を作成 校外用学校新聞で取組を地域へ発信</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 須々万地区土砂災害危険箇所の巡検と地図の作成 6月と11月に、3班に分かれ巡検を実施した。周南市作成のハザードマップを参考にしながら、土砂災害特別警戒区域等を確認し、写真撮影を行った。また、校地内にある土砂災害特別警戒区域については斜面の状態や崩壊した場合の方向などを確認し、校内で避難経路等を発表した。</p> <p>(2) 須々万地区自主防災訓練への参加 7月26日(土)に徳山北分校グラウンドで行われた防災訓練に参加した。当日は駐車場準備や誘導を行い、災害時に地域住民の避難場所に設定されている徳山北分校グラウンドの役割を確認した。また、地域の方と協力して土のうを作成した。</p> <p>3 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる須々万地区にも多くの土砂災害危険箇所があることがわかり、生活の中で意識して斜面等の地形を見るようになった(3年女子)。 ・須々万地区は自分の住んでいる地区ではないが、この活動を通して進学先で転居した場合、その地区の土砂災害危険箇所を調べておく必要があると感じた(2年男子)。 ・巡検や防災訓練で地区の方と交流し、得た情報がとても役に立った(1年女子)。 <p>4 成果と課題</p> <p>生徒は須々万地区の多様な地形から危険箇所を実際に確認することの難しさを実感し、ハザードマップで確認するだけでなく、自分の目で危険箇所を確かめることや地域の方に情報を聞くことの重要性を学んだ。</p> <p>また、校地内にある特別警戒区域や土砂災害発生の危険度が高まった時の対応を校内で発表したことで、他の生徒の意識も高めることができた。今後は、地域の防災意識を高めるため、地域の方と連携した活動を考えたい。</p>	



巡検の様子



防災訓練の様子

学 校 名	山口県立新南陽高等学校
取組のタイトル	通学路ヒヤリハット
取組の概要	通学路の危険箇所として、交通事故が起こりやすい場所や不審者の情報を収集し、危険箇所マップを作成する。また、集めた情報から危険な状況や場所を明らかにし、通学時等の安全確保に活用する。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) アンケートの実施 生徒会執行部で、夏季休業の直前に全校生徒を対象にアンケートを実施する。アンケートの内容は、通学路で事故にあったり、危険を感じたりした場所・時間帯・状況について、可能であれば図示してもらおうものとする。集まったアンケートは夏季休業中に集計して、通学路での危険な場所をリストアップし、現地調査の計画を立てる。合わせて、不審者の情報や学校に寄せられたマナー等の交通に関するトラブルの内容などの情報を収集する。</p> <p>(2) 現地調査 アンケートの結果から通学路の中で特に危険性が高いと思われる場所について、2学期に現地調査を実施する。調査では、事故等の起こった状況について、現地の状況と照らし合わせて検証し、危険な理由を明らかにし、どうすれば安全に通学できるか考える。</p> <p>(3) 危険箇所マップの作成と調査の成果の公表 アンケートと現地調査の結果をもとに通学路の危険箇所マップを作成し、2学期に公表する。地図上で危険な場所を図示し、特に危険な場所については、拡大した図と注意事項を掲載する。また、事故やトラブルの起こりやすい状況や、自転車等の交通マナー、自動車のドライバーから見た危険な状況等をまとめ、危険箇所マップと合わせて公表する。</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) アンケートの実施 夏休みの前に、全校生徒を対象に通学路で「ヒヤリハット」した場所や時間、状況についてのアンケートを実施した。夏休み中にアンケートを集計し、通学路の中で事故が起こった場所、事故が起こる危険性があった場所、不審者が出没した場所をリストアップした。その結果をもとに、実際に現地調査に行く場所を検討した。これまで事故が起きていなかったため情報がなかったが、何度も生徒が危険な目にあっている場所があるなど、思っていた以上に通学路に危険があることがわかり、集計を担当した生徒も驚いていた。</p> <p>(2) 現地での調査 アンケートで挙げた通学路の危険箇所について、特に危険性が高い場所の状況を明らかにするため、実際に現地に行き調査を実施した。歩行者や自転車だけでなく、自動車から死角になる場所や、一時停止等の交通標識、坂道、交通量など、現地に行かないとわからないことも多く、調査した生徒も危険な理由がわかり納得していた。</p> <div data-bbox="932 1592 1420 1917" data-label="Image"> </div> <p>(調査の様子)</p> <p>(3) 調査のまとめとマップの作成 アンケートと現地調査の結果をもとに危険箇所マップを作成した。一目で地図上の危険な場所がわかるように、事故の起きた場所、危険を感じた場所、不審者が出没した場</p>	

所をそれぞれ違う色で示した。また、特に危険な場所については、拡大した図と写真を掲載し、注意点をわかりやすく示すなど、自分たちの調査結果を伝えるために、様々な工夫をしながらマップを作成した。

情報の整理とマップの作成に関わった生徒は、事故やトラブルが起きやすい場所や状況について考えるようになった。作業と並行して注意すべき点についてまとめ、その成果をもとに、危険箇所マップの公表に合わせて「生徒会だより」の特別号を発行した。



(まとめ作業の様子)



(危険箇所マップ)

3 生徒の感想

- ・マップを作る中で、普段あまり気にしていないような所にも危険が潜んでいることがわかった。このマップを見ることで、みんなの危険が少しでも減るといいなと思う(3年女子)。
- ・身近なところにもたくさんの危険な場所があることが、今回ヒヤリハットマップを作ってわかった。だからこそ、もっと交通安全に気をつけて生活していこうと思う。このマップがみんなの安全に繋がるといい(3年女子)。
- ・「事故は他人事だ。」という思い込みから、気をつけようとしていなかったが、どこでも事故は起こり得るので、日々気をつけていきたいと思えるようになった(1年女子)。
- ・多くの生徒の使う通学路で、危険が多い場所をよく把握できた。定期的な調査が必要だと感じた(2年男子)。
- ・危険な場所でどのように気をつけたらいいかなども、このマップからわかった。また、車から歩行者や自転車がでていないことがあるので、車の死角に入らないなど、自分の身はしっかり自分で守るようにし、安全な生活を送りたい(2年女子)。



(生徒会だより)

4 成果と課題

活動を通じ、特に調査・マップの作成に関わった生徒の交通マナーや交通安全、防犯に対する意識が高まった。また、危険箇所マップや生徒会だよりを見て、普段何気なく登下校している通学路で、事故に遭った、または事故に遭いかけていた生徒が考えていた以上にいることがわかり、驚いた生徒も多く、通学路での安全の注意喚起につながった。

今年度は生徒会執行部で実施したが、交通安全委員等の生徒が関わる体制を作れば、より多くの生徒の意識を高めることにつながる。また、調査の成果を学校安全の指導に効果的に生かせる場を設けることができれば良かった。

次年度への課題として、集める情報の量と範囲が挙げられる。今年度初めての取組であったため情報量が限られたが、継続して実施することでより行き届いた危険箇所マップと資料を作成することができる。また、PTAや地域、警察等と連携して実施することができれば、様々な視点と情報が集まり、より充実した活動とすることができると思われる。

学 校 名	山口県立徳山商工高等学校
取組のタイトル	専門高校の特色を生かした防災に関する出前授業
取組の概要	本校の特色ある取組の一つとして、中学生に対して高校生が専門学科の出前授業（平成24年～）を行っている。環境システム科環境土木コースでは、普段の学習を生かして地域のハザードマップを活用した防災授業を実施している。

1 計画の内容

- (1) 縮尺 1 : 25,000 の国土地理院地形図を使って、中学校の所在地とその周辺の地形を調べる。
- (2) 中学校付近の防災ハザードマップを使用し、想定される災害について学習する。
- (3) 地形図と防災ハザードマップを照合する。
- (4) 実際に現地を踏査し、地形や周辺環境について学習を深める。
- (5) 地形図、防災ハザードマップ、現地踏査による情報を集約し、教材づくりを実施する。
- (6) 防災授業の実施
- (7) アンケートの実施
- (8) アンケート集計と反省会の実施

2 活動の様子



災害についての説明



ハザードマップについての説明



グループ学習

3 生徒の感想

- ・学校周辺の身近な災害を取り上げた授業で真剣に取り組めた。
- ・地図の読み方が理解できた。
- ・防災ハザードマップの存在に気付くことができた。

4 成果と課題

生徒自らが出前授業を実施することで、他の安全に貢献することにつながる、生徒の企画能力の向上やコミュニケーション能力の向上につながった。

今後の課題としては、現地調査や情報収集についての時間をどのように確保するかということがある。

学 校 名	山口県立南陽工業高等学校
取組のタイトル	生徒会による校内危険箇所マップと安全表示の作成
取組の概要	本校では校舎の建て替え工事に伴い、敷地内に危険箇所が増えている。事故防止のため、生徒会の生徒が敷地内の危険箇所を点検し、必要に応じて安全表示を行う。また、全校生徒へ周知徹底するために、「校内危険箇所マップ」を作成し配布する。

1 計画の内容

- (1) 敷地内の危険箇所を点検し、リストアップする。
- (2) 必要に応じて安全表示を行う。
- (3) 校内危険箇所マップを作成。
- (4) 全校集会において全生徒へ校内危険予知マップを配付し、周知徹底する。
企業で行われているKY活動を参考に行う。

2 活動の様子

(1) 敷地内の危険箇所のリストアップ

生徒会役員13名を2班に分け、敷地内及び校舎内の危険箇所を点検し、リストアップした。

日頃の学校生活において危険を感じている場所が数多く挙げられ、サポートしている教員も気づかない点が多数あった。

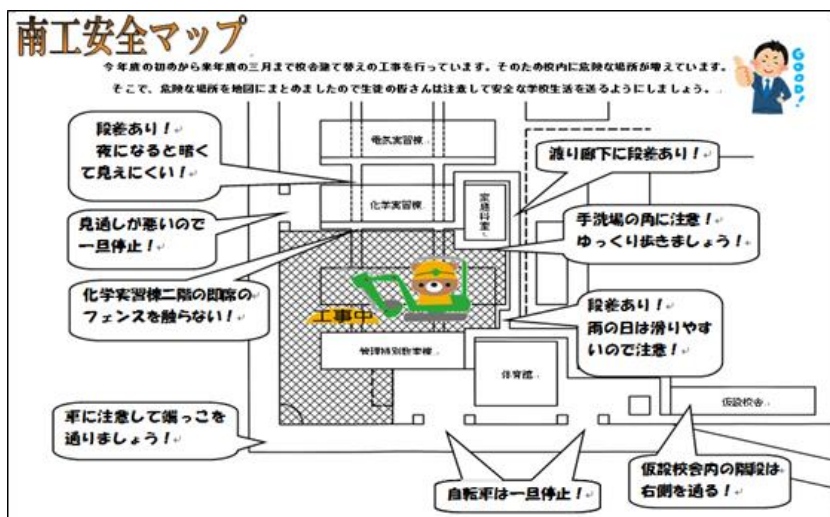


(2) 安全表示

生徒会で話し合い、マップにより注意喚起する箇所と安全表示を行う箇所を選別した。安全表示については、できるだけ気づきやすい色を使うことや見やすい場所に表示することを心掛け、生徒の発想を生かして作成、表示を行った。



(3) 校内危険箇所マップ「南工安全マップ」を作成



(4) 全校集会での配付と生徒会長からの説明

全校集会で生徒会により全生徒へ「南工安全マップ」を配付した。また、生徒会長が危険箇所等の細かい注意点を説明し、事故防止を呼びかけた。



3 生徒の感想

- ・今回の活動をするとなったとき、すぐに危険箇所が数か所浮かんだ。しかし、生徒会で活動を始めると次々と危険箇所が発見でき、数の多さに驚いた。その後、みんなが分かりやすいように工夫し、表示やマップの作成を行った。
- ・全校集会では危険箇所を説明し、全校生徒に注意することを伝えた。全校集会の後、数人の生徒から、「あんなに危険な場所があったんだ。」「これからは気をつけて過ごす。」などいろいろな声を聞き、この活動を行って良かったと思った。

4 成果と課題

本校では平成26年4月から校舎の建て替え工事が行われている。工事の進捗状況で日々刻々と敷地内の様子が変わっていたため、ある程度状況が落ち着いた2学期末に実施した。

生徒主体の活動であったため、教員が気づかない危険箇所を見つけることができたり、生徒同士での情報交換の機会にもなったりした。また、本校生徒の多くは製造業の現場へ就職していくが、企業で行われている危険予知(KY)活動についても少し学習する機会ができ、良い経験となった。

生徒会から全校生徒への周知徹底を行い、少しずつ安全に対する意識が高まっている様子である。しかし、工事の進捗状況により危険箇所も変わっていくため、定期的に「南工安全マップ」の更新や生徒会からの呼びかけが必要である。

学 校 名	山口県立防府高等学校
取組のタイトル	生徒会役員による万引き防止リーダーズ活動「C.C.作戦」
取組の概要	防府市内における少年による万引きが増加傾向にあることに対して、警察・地域店舗と協働して、高校生の視点から、非行防止・被害防止に貢献するとともに生徒の規範意識の向上に寄与する。

1 計画の内容

- (1) 日時 平成26年10月29日(水)
- (2) 実施店舗 防府市駅南町 クスリ岩崎チェーン防府駅南店
- (3) 参加者 少年リーダーズ(生徒会長ほか役員5名)
引率教員1名
少年相談員(警察ボランティア)2名
警察職員2名

2 活動の様子

店舗の責任者と参加者の打ち合わせの後、
 店内の環境改善
 店員の防犯意識の向上
 万引きされにくい店舗づくりの観点から、2～3人の班ごとに店内をチェックして、
 気付き・問題点の報告を行なった。



3 生徒の感想

(1) 店舗内での気付きの発表

店内に多くの防犯カメラやミラーが設置してあるのに改めて気付いた。

店舗の商品の陳列がお客本位でない。

(商品が山積み・棚が高い・雑然と陳列してある商品がある 等)

店員の数が少ないので、店内全てを見渡すことはできないのではないか。

陳列の仕方ですべて死角が生じる。

防犯カメラがたくさんあるので、「作動中」ということをもっとアピールすべきである。

万引きを発見した場合は、「警察・学校に連絡します。」等のステッカーがあれば、万引き防止に効果的である。

(2) 活動後の感想

生徒1 少年リーダーズ活動を通して学んだことは、学生は地域の注目を浴びる存在であると同時に、多くの期待をかけられているということだ。今回訪れたドラッグストアでは、中高生の購買層が厚く、お店で気持ちの良い挨拶をしてもらえると大変嬉しいと話された。もっと学生一人ひとりが地域に守られていると感じながら生活することで、万引き行為も減るだろうと感じた。

生徒2 少年リーダーズ活動を通じて改めて地域とのつながりは大切だと思った。今回活動を行なったドラッグストアでは、中高生の万引きが多発しているようだ。一人ひとりが地域にどれだけ支えられているかを理解して、地域の方々に感謝していれば、きっとこのようなことは起きないのだろうと思った。

生徒3 万引き防止の一環として行なった今回のリーダーズ活動では、普段知ることができない「万引きの実情」を知ることができました。盗られやすいものや防犯カメラの死角となる場所など、日常生活で意識することがないことについて考え、万引きという行為がどれだけ愚かなことか再認識しました。地域の方々や家族・学校の期待を裏切らないためにも、このような行為を絶対してはいけないと肝に銘じました。

4 成果と課題

生徒は、警察・地域店舗と協働して、高校生の視点から非行防止・被害防止に貢献する目的で参加したが、店舗の努力や警察の啓発活動に触れ、改めて「万引き行為」は許されることではないと自覚した。今後は、この経験を全校生徒に伝え、啓発活動に貢献することが大切である。全校集会や生徒会新聞等を通して、生徒の生の声や活字で、万引き防止の啓発活動を進めるとともに、生徒の規範意識の向上に努めていくことが課題である。

学 校 名	山口県立防府高等学校佐波分校
取組のタイトル	校外でのあいさつ・交通安全運動の実施
取組の概要	夏の交通安全県民運動、秋の全国交通安全運動、年末年始の交通安全県民運動の期間中に、年 4 回、地域の小・中・高、PTAと警察署が連携し、生徒が朝と夕方に交通量の多い交差点に立ち、のぼりや横断幕で交通安全を呼び掛け、利用者の多いショッピングストアでパンフレットを配る交通キャンペーンを行っている。

1 計画の内容

(1) 実施月

7月朝、9月朝・夕、12月朝（年4回）

(2) 場 所

徳地堀交差点、丸久徳地店駐車場

(3) 参加者

生徒会役員、交通委員、有志生徒（約30名）

(4) 実施内容

交差点周辺の道路脇に、交通安全用のぼりを立て、たすき・腕章を付けて、通行者や車にあいさつするとともに安全通行を呼びかける。また、駐車場でパンフレットを配り、交通安全への注意を喚起する。

2 活動の様子



（ショッピングストアの駐車場で、買い物に訪れた方に、交通安全を呼びかけ、パンフレットを渡しているところ）

3 生徒の感想

- ・見ず知らずの方に声を掛けるのは勇気がいったが、笑顔で対応してもらいうれしかった（1年男子）。
- ・パンフレットを渡した時に、「ごくろうさま。」と言ってもらいうれしかった（2年男子）。

4 成果と課題

校外での交通安全運動を行うことで、地域への貢献もでき、地域の方々との触れ合いにより、お互いに「地域の学校」という意識を高めることができた。

地域の方々と、高校生らしくより積極的に明るく元気なコミュニケーションがはかれるようにしたい。

学 校 名	山口県立防府西高等学校
取組のタイトル	生徒会による学校安全マップの作成
取組の概要	生徒会の生徒が全校生徒を対象にアンケートを行い、学校周辺の安全マップを作成した。

1 計画の内容

(1) 実施までの準備

生徒会でアンケートを作成し、全校生徒に対して実施する。

(2) 実施内容の概説

アンケートを集計し、白地図に危険箇所を貼り付けていく。

完成した安全マップは、生徒全員が見る機会の多い1階コモンホールに掲示する。

(3) 実施の時期

アンケート実施：12月22日（月）

安全マップ作成：12月22日（月）～25日（木）

2 活動の様子

(1) 作成風景

全校生徒を対象にしたアンケートをもとに、生徒会と交通委員が協力して学校安全マップを作成した。



(2) 完成した学校安全マップ

全校生徒が見る機会の多い1階コモンホールに掲示し、学校周辺の危険箇所を再確認し、安全に登下校できるよう呼びかけを行った。



3 生徒の感想

- ・安全マップを作成してみて、通学路に多く危険が潜んでいることが分かった。
- ・自分が普段使わない道の危険が分かって良かった。

4 成果と課題

- ・安全マップを作成することで、改めて学校周辺の危険な場所を確認することができた。
- ・全校生徒にアンケートを実施したが、多くの生徒が感じている危険な場所が同一箇所に集中し、他の危険箇所が見過ごされた。
- ・今回は新しく作成したので、来年度以降は今回の安全マップに追加する形で作成すれば、さらに内容が充実すると思う。

学 校 名	山口県立防府商工高等学校
取組のタイトル	交通安全宣言式
取組の概要	<p>全校生徒が、交通安全に関する講話を聞いた後、生徒代表が「交通安全宣言」を行った。防府商工生として、交通ルールやマナーを守る意識を高めることを目的に毎年実施している。</p>
<p>1 取組の内容</p> <p>(1) 実施時期と実施の主体・対象 平成26年12月9日(火)に本校体育館にて実施した。過去に本校生徒が交通事故で亡くなったことを契機に、交通安全に対する意識を高めることを目的に行われている。交通委員会が中心となって、全校生徒を対象に実施した。</p> <p>(2) 実施までの準備と実施内容の概要 交通委員会と担当教員が、防府警察署交通課への講師依頼と講話内容の打ち合わせを実施した。また、本校における交通ルールやマナーの現状を話し合い、今年度の「交通安全宣言」の内容を検討した。 式当日、交通委員長が防府警察署交通課の方の前で「交通安全宣言」を全校生徒に対して読み上げ、法令遵守の意識を高めた。</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 交通安全に関する講話 防府警察署交通課の方から交通に関する講話を聞くことで、交通規範を遵守することの重要性を学ぶことができた。講話は、Q & A方式で展開され、交通ルールについての発問に対して、生徒一人ひとりが答えている様子が印象的だった。特に、年末年始は交通事故が多いので注意する必要がある、交通に対するルールなどを再確認する良い機会になった。</p> <p>(2) 交通安全宣言 交通委員長がステージ上で、次のような「交通安全宣言」を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一、自転車通学者は自転車に不必要な改造を加えず、学校に所定の届けをした上で、ステッカーを貼り、所定の駐輪場にきちんと駐輪します。 一、自転車通学者並びに徒歩通学者は、交通ルールを遵守し、特に信号のない交差点では一時停止するなど、時間と心に余裕を持って、常に譲り合いの気持ちで登下校します。 一、自転車通学者は、路側帯通行時に左側通行を心掛け、並進、二人乗り、傘差しや携帯電話の使用などの「ながら運転」、夜間の無灯火運転など、周囲に迷惑をかけるような行為はしません。 一、電車やバスなどの公共交通機関を使う通学者は、乗り物内での乗車マナーを守り、周囲の方に決して迷惑をかけるような行為をしません。 <p>以上、四点を常に心掛け、地域の方から信頼される防府商工生をめざすことをここに宣言します。</p> <p>3 生徒の感想 交通ルールの大切さを改めて感じることができました。今回の講話で学んだことを、これからの生活に生かしていけるようにしたいと思います(2年男子)。</p> <p>4 成果と課題 交通マナーについて、地域の方からの苦情はかなり減少したが、交通事故については、相変わらず発生している。今後、交通事故を減少させていくことが課題である。</p>	



学 校 名	山口県立山口高等学校
取組のタイトル	生徒によるケータイ・スマホ使用のルールづくり
取組の概要	生徒会や生徒保健委員会が中心となって、ケータイ・スマホの使用状況や健康状態、生活習慣についての調査を行い、生活習慣の改善やルールづくりに取り組んでいる。

1 計画の内容

(1) 使用状況の把握・理解

前期生徒会役員が中心となって、全校生徒の携帯電話やスマートフォンの使用状況をアンケート調査し、前期生徒総会で問題提起を行った。

(2) 「山高健康の日」

生徒保健委員会が中心となって、全校生徒の健康実態や生活習慣についてのアンケート調査を行い、その結果に基づき、13分野の専門家や専門機関と連携しながら課題解決を図った。

2 活動の様子

(1) アンケート調査及び問題提起

生徒会執行部定例会において、「携帯電話・スマートフォンの使用状況が気になりだ（生活習慣への影響が大きいと考えられるため）」という意見があがり、使用時間、夜間使用（22時以降）の有無、電話・メール以外の使用目的、家庭でのルールの有無等のアンケートを行うこととなった。

その結果を、前期生徒総会（10月21日実施）で発表し、全校生徒に問題提起を行った。



（生徒総会での発表）

(2) 「山高健康の日」を活用した生活習慣の改善

生徒保健委員会主催の行事「山高健康の日」（1月15日実施）において、眼科医を講師とした、目と健康の講座「目がシャキ」、小児科医を講師とした睡眠、生活習慣と健康の講座「いつ寝るの？夜でしょ！」等を開催した。「目がシャキ」講座においては、生徒の事前アンケートで目が悪くなる原因の第1位、2位が「携帯電話」、「ゲーム・パソコン」であるという結果を受け、ドライアイやVDT症候群等への対策を学んだ。



（山高健康の日）

3 生徒の感想

前期生徒会役員：「スマートフォンの使用以外のことでも同様だが、自分で何か取り決めをして使用することが大切だと思った。自分で決めたルールをずっと守り通せるような強い心が必要ではないかと思った。」

山高健康の日の「いつ寝るの？夜でしょ！」講座を受講した生徒：「高校生になってからスマートフォンを触っていることが多くなった。改善していかなければ授業中に眠くなることを止めることができないことがよく分かった。」

4 成果と課題

生徒の取組については、PTAの役員会等で共有するとともに、「『山高健康の日』保護者の会」では山口県警察本部サイバー犯罪対策室から講師を招き、「サイバー犯罪の現状と対策～スマートフォン等を安心して生徒に使わせるために～」というテーマで講演会を行い、保護者からは「価値観の違う各家庭間でもある程度の共通のルールをもつために、話し合っていくことが必要なのかなと思った。」等の意見をいただくことができた。今後、生徒会が中心となって、生徒によるルールづくりに取り組んでいくこととしている。

学 校 名	山口県立山口高等学校徳佐分校
取組のタイトル	交通安全教室
取組の概要	山口警察署交通課から講師を招き、交通安全に係る諸事項を学習するとともに、自転車の運転マナーや自他の生命を尊重し、責任をもって行動できるようにする。

1 計画の内容

学校安全計画の中に、春の交通安全指導（4月）、自転車点検（5月、9月、10月）、交通安全教室（6月）、秋の交通安全指導（12月）、年末年始の交通安全指導（12月）を位置付け、その一環として自転車の運転マナーなど交通安全に関する事項及び自転車傷害保険の講話を行い、実技では校舎前に白線を引き道路に見立て実車指導を行った。

2 活動の様子

- (1) 自転車の運転マナーの正しい理解と実践
- (2) 二人乗り、傘差し、携帯電話使用等による片手運転の危険性の再認識
- (3) 並進や暴走等の迷惑行為の危険性の再認識
- (4) 自転車の点検整備と反射材の取り付けの励行



3 生徒の感想

- ・自転車で安全にこぎ始めるためにはペダルをこぎやすい位置にすることが大切だということが分かった（1年男子）。
- ・歩道に自転車と歩行者がいたら歩行者優先ということが分かった（2年女子）。
- ・賠償金の保険があることを初めて知って良かったと思った（2年女子）。
- ・実技をやって分かりやすかった。自転車の賠償金がこんなに高いとは思わなかった（3年男子）。

4 成果と課題

交通教室の後のアンケート結果を見ると、交通ルールを守ることの大切さや状況によって加害者にも被害者にもなり得ると聞いて、ますます気を付けて運転をするようになったとの記述が多く見られ、一定の成果があった。

学 校 名	山口県立山口中央高等学校
取組のタイトル	生徒による保育園児への交通安全指導
取組の概要	生徒会を中心に、生徒が近隣の保育園に出向き、交通安全ルールやマナーについて事前指導を行った後、保育園から高校まで保育園児と一緒に歩き、交通安全指導を実践した。クイズ等を組み合わせて、保育園児にも分かりやすく、また、遊びの要素も入れた交通安全指導になるよう工夫した。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 実施の主体 生徒総会で、生徒会執行部が提案し、全校生徒から保育園児への交通安全指導の参加希望者を募った。</p> <p>(2) 概要 保育園児と学校周辺の道路の通行の安全を事前学習で確認し、一緒に歩くことを実践することにより、「道路を通行するのは、自転車だけではない。」「小さい子どもや年配の人のそばを通行するときには配慮が必要である。」等の他者に対する配慮を再認識し、保育園児とともに交通ルールや歩道、陸橋、交差点の通行マナーについて考える。</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 保育園との事前打合せ編 平成26年7月23日(水) 14:00～14:30 園長先生、年長児の担任、本校生徒会執行部3名が参加し、事前学習と実践の注意点などを確認した。</p> <p>(2) 保育園児と交通ルールを確認しよう編 平成26年8月6日(水) 9:30～10:00 年長園児30名と生徒5名が参加し、事前学習をクイズ形式で楽しく行った。</p> <p>(3) 保育園児と一緒に歩いてみよう編 平成26年8月7日(木) 9:30～11:50 保育園から年長園児25名と本校生徒11名が本校まで一緒に歩いた。往復約2.5Kmを異なるルートで歩き、安全に配慮し、交通ルールやマナーに気をつける活動を行った。</p> <p>(4) 保育園児と遊ぼう編 中庭で園児と高校生が遊んだ後、休憩を兼ねて、紙芝居の読み聞かせを行った。</p> <p>3 生徒の感想 交通ルールやマナーの事前指導の後、担任の先生から私たちの指導について改善点などを指摘していただき、大変勉強になりました。次の日のお散歩では、「昨日この道お兄ちゃんが教えてくれた！」など園児の皆さんがいろんな話をしてくれ、みんな素直で明るく、とても楽しかったです。子どもたちの視点から交通安全について考えてみると、危険な場所が多く、子どもは車の死角となることなど改めて気づかされました。子どもたちとふれあう楽しさだけでなく、子どもたちに的確な指示を出すことの難しさなどを学ぶことができ、私たちをさらに成長させてくれました(2年女子)。</p> <p>4 成果と課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが自発的に考え行動し、工夫して実践することで、地域や他の教育機関との連携の大切さと楽しさを学んだ。 ・保育園がこの活動の趣旨に賛同し、今後も様々な形態で連携することとなった。 ・雨天でも、傘をさして歩く練習になるし、バスを利用する練習も本校や保育園前にバス停があるので可能であることが分かった。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が平日の授業時間帯に保育園児と合同で活動できる日時は非常に数少なく、日時の設定が難しいので、工夫する必要がある。 ・今後は、小学生になる卒園前の年長児に対して、集団登校や不審者への対応などの学習活動も実践してみたい。 	

保育園児と交通ルールを確認しよう編

- 山口保育園から山口中央高校までの経路で、注意すべきポイントを解説・確認する。
- 5か所程度の画像を使用し、クイズ形式で交通ルールやマナーについて園児に楽しく理解させる。



初めて園児に指導します。まずは自己紹介。とても緊張しました。



「横断歩道は右手をあげて」…
園児は左手を挙げてました
(～～)



「歩道の縁石の上を歩いてもいいかな?」「だめー!」「正解! 拍手」

保育園児と一緒に歩いてみよう編

- 山口保育園から山口中央高校まで保育園年長園児と歩いて往復する。
- 保育園児は2人1組で手をつないで歩く。
- 園児の担任の先生たちが、先頭、真ん中、最後尾を歩く。
- 高校生は、その間に入って、一緒に安全に気をつけながら歩く。



さあ、手をつないで出発。ちゃんと交通ルールとマナーを守ってゴールできるかな?



プリンセスロード（陸橋）初体験！みんな元気いっぱい、ワクワクです。



プリンセスロード（陸橋）から見えた高校が近づいてきました。バス停を過ぎたらゴールです。



休憩はシャボン玉遊びと紙芝居。「地獄の宗兵衛」のお話に皆聴き入っていました。



帰りは、別ルートを通りました。安全のため、高校生が車道寄り歩きます。



保育園まであと少し。横断歩道は手を挙げて渡ります。往復2.5KM、頑張りました。

学 校 名	山口県立西京高等学校
取組のタイトル	交通安全委員会による自転車点検
取組の概要	本校、交通安全委員による通学自転車の安全点検及びサイクルロック活動の推進を行った。

1 計画の内容

(1) 自転車点検・サイクルロック活動

本校は、ほぼ全員の生徒が自転車通学をしている状況にあることから、普段使用している自転車の安全点検を、各クラス2名の交通安全委員により、6月、11月に昼休みの時間帯を使って実施している。前日に交通安全委員に点検用紙を配付し、クラスにおいても呼びかけを行っている。

2 活動の様子

昼休みの限られた時間の中ではあったが、前日に点検用紙を配付した際に点検の流れ等を確認しておいたので、各クラスとも円滑に実施できた。

【点検項目】

ブレーキ・ライト・反射板(材)・アップハンドル・その他整備不良個所の確認及びサイクルロック(してない、1か所、2か所)

3 生徒の感想

- ・ブレーキや反射板は、ほとんどの自転車が問題なかった。アップハンドルにしている自転車が何台もあった(3年男子)。
- ・きれいな自転車が多かったので、整備不良などはなかったと思う。ライトは自動点灯式が多いので、正常に点灯するかどうかは確認できなかった。鍵をかけていない自転車がとても多かった(1・2年女子)。

4 成果と課題

自転車の点検は年度始め(本校ステッカー)を含め年3回程度実施している。一昨年度には地元警察署の方の同席のもと、サイクルロック活動を朝の登校時間中に実施したが、今年度はスケジュールの調整がつかず、実施できなかった。

今年度、本校生徒の自転車による交通事故被害件数や自転車盗難被害件数は、減少傾向にあるものの、今回の活動を実施して事故を誘発するような車両(アップハンドルやその他整備不良)については、直ちに改善を図り、生徒への注意喚起も行った。サイクルロックに関しては意識がまだまだ低く、二重ロックを行っている車両は非常に少なかった。今後も継続的に注意を促していきたいと考えている。

本校では、自転車の交通安全の観点から、「携帯・傘さし・イヤホン」のキャッチフレーズを掲げて指導を行っている。前述のとおり、交通事故被害件数は減少傾向にあるものの、生徒が安全に登下校できる環境づくりを推進していくとともに、今後も自転車の安全点検及び本校キャッチフレーズを更に周知徹底させ、自転車交通事故・自転車盗難被害「ゼロ」をめざしたいと思う。

学 校 名	山口県立山口農業高等学校
取組のタイトル	家庭クラブ・生徒会による交通安全キャンペーン
取組の概要	家庭クラブ・生徒会の生徒が手作りマスコットを制作し、ドライバーに配布して交通安全を呼びかけた。

1 計画の内容

- (1) 交通安全マスコット制作計画
- (2) 交通安全マスコット材料購入
- (3) 交通安全マスコット制作
- (4) 交通安全標語の募集
- (5) 交通安全カードの原画制作
- (6) マスコットとカードの袋詰め
- (7) 交通安全キャンペーン実施計画及び警察との調整
- (8) 交通安全キャンペーン実施
- (9) 交通安全キャンペーンの反省と事後指導



2 活動の様子

- (1) 家庭クラブによる交通安全マスコット及び交通安全標語カード作り
交通安全を呼びかけるため、本校家庭クラブ員の約150名が交通安全マスコットを手作りした。また、交通安全の標語を考え、標語を印字した生徒オリジナルの交通安全カードを制作した。
- (2) 家庭クラブ役員・生徒会による交通安全キャンペーンの実施
当日は生徒会と家庭クラブ役員が約20名で、制作したマスコットと交通安全標語カードを一緒に袋に入れて、秋の交通安全週間にドライバーへ配布した。山口南警察署、小郡地域のボランティア団体の方々と協力して行った。

3 生徒の感想

- ・実際に配ってみて、ちょっと笑顔が硬かったと反省した(3年女子)。
- ・「ありがとう」など感謝の言葉をくださったので、終わったとき実施してよかったと思った(3年女子)。
- ・緊張しましたが、喜んでくださったのでうれしかった(2年女子)。
- ・自分たちの呼びかけで、少しでも交通事故が減ってくればいいと思った。(3年女子)



4 成果と課題

- (1) 成果
 - ・山口市小郡地区のボランティアの方々と交流を図り、地域のつながりが深まった。
 - ・家庭科を履修している生徒全員がマスコットを作ったため、学校全体で取り組む雰囲気作りができ、生徒一人ひとりが交通安全について考え、貢献することができた。
 - ・2号線を通る自動車のドライバーに交通マスコットを配布し、交通安全を呼びかけることができた。
- (2) 課題
 - ・本校は様々な方面から通学してくる生徒が多いため、集合して活動するのが大変であり、教員の連携が必要である。
 - ・この活動を継続していくことが大切である。
 - ・計画から実施まで地域の方々と一緒に行うと、より地域とのつながりが深まり、生徒の成長につながると考えている。



学 校 名	山口県立宇部高等学校
取組のタイトル	少年リーダーズ活動
取組の概要	本校生徒、宇部警察署員、少年相談員が協力して、自転車盗難被害防止及びサイクルマナーアップの意識高揚を図るための活動を行った。

1 計画の内容

- (1) 目的 自転車の盗難防止とサイクルマナーアップ等に対する意識高揚
- (2) 実施日時 平成27年1月28日(水)午前7時50分から8時20分まで
- (3) 実施場所 本校グラウンド南側道路及び本校生徒駐輪場
- (4) 参加者 本校生徒11人 宇部警察署員5人 少年相談員3人

2 活動の様子

- (1) 本校グラウンド南側道路(歩道)での啓発活動
7時45分本校玄関前に集合。
7時50分から8時15分まで呼びかけ活動。
生徒4人、宇部警察署員2人、少年相談員1人参加。



- (2) 本校駐車場での施錠点検及び啓発活動
7時45分本校玄関前に集合。
7時50分から8時15分まで呼びかけ活動。
並行して駐輪中の自転車の鍵かけ状況を点検。
無施錠自転車に鍵かけ注意札結びつけ。
生徒7人、宇部警察署員3人、少年相談員2人参加。

- (3) 終了後の指導助言
8時20分から宇部警察署員及び少年相談員から
鍵かけ意識の啓発依頼や、サイクルマナーアップ等
に対する意識高揚に関わる指導助言を受ける。
8時25分終了



3 生徒の感想

- ・同級生で鍵をかけていない人が意外と多かったので、しっかり呼びかけをしないといけないと思った(2年・活動した男子)。
- ・鍵かけの大切さをあらためて認識できた(2年・活動した女子)。
- ・つつい鍵をかけないままにしていたので今後は気をつけたい(3年・受けた男子)。
- ・地域の人もいろいろ心配してくれるんだなと思った(2年・活動した男子)。
- ・学年が上がるほど鍵かけが甘いと感じた(1年・活動した男子)。
- ・寒い時期の朝の活動は辛いけど大事なことだと思う(1年・活動した女子)。
- ・鍵かけを軽くみていました(3年・受けた男子)。

4 成果と課題

生徒同士が声を掛け合うことで、施錠の注意を素直に受け入れる様子が多々見られ、取組の効果はあったと感じている。また、多くの生徒に施錠の大切さを気付かせるいい機会となった。

今回の取組によって、本校駐輪場内における生徒たちの自転車盗難防止意識が低くなっているという実態が把握できた。とりわけ、学年が上がるにつれて施錠率は低くなっており、本校で過ごす時間の経過とともに、防犯の意識は下がっていくようである。

今後の課題として、学年が上がるのと共に下がる施錠率の改善を図ることが挙げられる。そこで、毎年度数回、生徒会を主体とした自転車盗難防止意識の高揚を図った取組を計画・実行し、施錠率も併せて上げていきたいと思う。

学 校 名	山口県立宇部中央高等学校
取組のタイトル	交通委員による交通安全を呼びかける「立て看板」の作成・設置
取組の概要	「夏の交通安全県民運動」の期間中に、交通委員が交通安全を呼びかける標語を記した「立て看板」を作成し、生徒会役員とともに本校西門付近に設置して、全校生徒に交通安全の呼びかけを行った。

1 計画の内容

(1) 実施の主体対象

交通委員・生徒会役員が、全校生徒に対し交通安全を呼びかける形で実施した。

(2) 実施までの準備

木材を加工し、「立て看板」を作成して、下塗りを行った。

(3) 実施内容の概要

交通委員一人ひとりが「立て看板」に標語の記入・着色を行い、西門周辺に設置した。

(4) 実施の時期

「夏の交通安全県民運動」の期間中に作成・掲示し、夏休みの注意喚起も含め、交通安全の呼びかけを行った。

2 活動の様子

(1) 立て看板の作成

地歴公民科教室等において、7月14日(月)から17日(木)の4日間で、交通委員が交通安全について、一人ひとりの思いを込めた標語やデザインを考え、「立て看板」を作成した。

(2) 立て看板の設置

7月18日(金)、終業式当日、生徒会役員とともに、本校西門付近に、「立て看板」を設置して、全校生徒に交通安全の呼びかけを行った。



3 生徒の感想

- ・一生懸命作った看板なので、生徒全員に見てほしい。これで交通事故や違反をする人が少なくなればいいと思う。
- ・看板を作って、書いてある標語の意味の深さや、自転車の危険さがよく分かった。
- ・大変だったけれど、交通委員全員で協力して作った。
- ・みんなが安全に登下校できるように見やすい看板を作った。今後も、交通安全の呼びかけを行っていきたい。



4 成果と課題

- 看板が新しくなって、みんなが新鮮な気持ちで交通安全を意識してくれている。また、自転車に鍵をかける習慣も身に付いてきている。
- 看板を作ったことによって、改めて自分の今までの自転車のマナーを振り返ることができた。
- ホームルームや全校終礼などで、交通委員が発表できる時間を設け、交通ルールを知らせていけばいいと思う。
- 東門付近にも設置した方がいいと思う。



学 校 名	山口県立宇部西高等学校
取組のタイトル	交通委員による自転車点検と下校時の交通指導
取組の概要	(1) 4月下旬の全学年自転車通学生対象の自転車点検、週1回の駐輪場 における自転車点検補助 (2) 定期的な下校時の交通指導
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 自転車点検 毎年4月下旬に全自転車通学生を対象に自転車整備点検を実施した。主体は生徒部交通教育担当教員だが、各クラスの交通委員が補助として参加した。また毎週1回、駐輪場にて自転車のチェックの補助等も行った。</p> <p>(2) 下校時交通指導 毎週1回下校時に、各クラスの交通委員が正門に至る道路沿いに立ち、下校指導を行った。</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 自転車点検 各クラスの交通委員が教員の補助として、ライトの明るさ・ブレーキのきき具合等について、生徒の立場からの点検・指導・助言等を行った。また駐輪場にて整備の行き届いていない自転車のチェック等も行った。</p> <div data-bbox="1027 898 1437 1200" data-label="Image"> </div> <p>(自転車点検の様子)</p> <p>(2) 下校時交通指導 本校正門に至る坂は長いので、自転車で下る際にスピードを出す生徒が多く、登ってくる自動車との衝突事故を起こすこともかつてはあった。従って自転車で坂を下る際は、自転車から降り、自転車を押して下るといった指導を行った。</p> <p>3 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃は先生から指導を受けるだけだが、立場が変わると見方が変わることがわかった(3年男子)。 ・自分たちが日頃いかに危ない乗り方をしているかがよくわかった(1年女子)。 <p>4 成果と課題</p> <p>どうしても教員が生徒と一緒にあって、自転車の整備が不備な生徒や、下校マナーの悪い生徒を取り締まるという形になってしまう。全生徒が自分で交通事故に関する危険性に気づいて、主体的に行動してくれることが理想だが、そこに至るまでにはかなりの根気強い指導が必要になってくると思う。</p>	

学 校 名	山口県立宇部商業高等学校
取組のタイトル	生徒会による自転車安全点検活動
取組の概要	生徒会執行部の生徒が、少年リーダーズ活動の一環として、地元警察署員と地域の防犯委員の方々と一緒に、防犯登録や二重ロック等の点検を行った。

1 計画の内容

(1) 実施の主体・対象

生徒会執行部が中心となり午前7時50分～8時20分間に登校する生徒に呼びかけをした。

(2) 実施の概要

自転車で登校した生徒に駐輪場で防犯登録や二重ロックの点検を実践するとともに、交通マナーアップを呼びかけるチラシを配り、盗難防止、安全利用の意識高揚を図った。

2 活動の様子

(1) 札の取り付け

すでに登校している生徒の自転車には、注意喚起のため札を付けた。

(2) ブレーキ等の確認

登校してきた生徒には、駐輪場の前で二重ロックのための鍵やブレーキのきき具合等の確認を行った。

(3) 挨拶運動と交通安全の呼びかけ

校門では、会長・副会長が挨拶運動と併せて交通安全を呼びかけた。



(駐輪場にて)



(駐輪場入口にて)



(校門にて)

3 生徒の感想

- ・本校では、施錠もそうだが駐輪のマナーもまだまだ不十分だと思った。防犯対策やマナーを呼びかけ、改善できるところはやっていきたい。そうすれば事故防止にもつながると思う(2年男子)。
- ・今回、施錠のチェックをしてみて、思った以上にロックしていない生徒が多かった。呼びかけを行い、盗難などの被害にあわないようにしていきたい(2年男子)。

4 成果と課題

防犯登録については、交通委員会の点検で確認してきたため取組は充分であったが、二重ロックについては意識が低く、「自分は大丈夫。」という安易な考えをもっている生徒が多く、今後、積極的に呼びかけをすることの必要性を感じた。安全運転や交通マナーの指導に併せて、盗難防止等の対策も指導していきたい。

学 校 名	山口県立宇部工業高等学校
取組のタイトル	交通安全教育の充実
取組の概要	(1) 全校生徒を対象とした危険予測学習(KYT)並びに交通事故等の疑似体験 (2) 警察等の外部団体と連携したリーダーズ活動

1 計画の内容

(1) 危険予測学習(KYT)並びに交通事故等の疑似体験

7月...危険予測学習(KYT)

会場：本校体育館、対象：全校生徒、講師：交通担当教諭

12月...交通事故等の疑似体験

会場：宇部中央自動車学校、対象：全校生徒、講師：宇部中央自動車学校
教官・宇部警察署員、協力：宇部市交通安全協会

(2) 警察等の外部団体と連携したリーダーズ活動

5月...自転車安全利用を呼びかける街頭キャンペーンへの参加

場所：神原交差点、参加：生徒会交通委員24名、主催：宇部警察署

1月...自転車の盗難防止と安全利用の啓発活動

場所：本校正門前、参加：生徒会交通委員8名、主催：宇部警察署

2 活動の様子

(1) 危険予測学習(KYT)並びに交通事故等の疑似体験

危険予測学習においては、本校周辺道路危険箇所や通学状況、駐車輪場状況、実際に市内で発生した交通事故等の画像を用いて交通担当教諭と全校生徒がディスカッション形式で交通事故の抑止について話し合った。

また、交通事故の疑似体験においては、自動車学校内の教習道路を使用し、自転車通学中の事故や危険運転等を体験・見学した。



(疑似体験の様子)

(2) 警察等の外部団体と連携したリーダーズ活動

本校の交通安全啓発の中心となる生徒会交通委員が、宇部警察署・宇部市交通安全協会等の外部団体や他校生徒とキャンペーン活動や一般の方々と触れ合うことによりリーダーの養成を行った。



(リーダーズ活動の様子)

3 生徒の感想

- ・何げなく通学している道路に、多くの危険が潜んでいることに気付いた(1年男子)。
- ・歩道に電柱がある道路や歩行者との分離が必要な道路など、今後、道路環境の整備が必要な道路がある(2年男子)。
- ・自動車の死角を考えたことがなかったが、実際の事故場面を見るとドライバーが気付かないことが多くあると感じた。(3年生男子)
- ・多くの方々が、交通安全の啓発に携わっていることを知り、自分を含め同級生や家族の安全意識の高揚に努めたいと感じた。(3年男子)

4 成果と課題

学校周辺の通学道路や自動車学校の教習道路を教材として活用することにより、生徒が身近な問題として捉えるようになった。また、地域団体等との連携により、リーダーの育成や交通安全に対する意識の高揚に繋がった。今後、これらの取組が一過性のものではなく、年間を通じた取組となるように継続的な計画・実践が必要であると考えている。

学 校 名	山口県立小野田高等学校
取組のタイトル	ハザードマップ作成
取組の概要	ハザードマップ（通学危険箇所地図）を作成し、全校生徒に配付して、注意を喚起する。

1 計画の内容

- (1) 実施の主体・対象・・・生徒会、交通委員（各クラス）が全校生徒に対して実施。
- (2) 実施までの準備・・・交通委員が全校生徒にアンケートを取り、危険箇所を調査。
- (3) 実施内容の概要・・・調査の内容をまとめ、その対処行動も併記してマップを作成。
- (4) 実施の時期・・・1月

2 活動の様子

(1) マップの作成

全校生徒から集められたアンケートを集約した。その際、その場所を歩いて実際の状況を確認した。危険箇所の申し出が広範囲に及んだため、今回は学校周辺に限定してハザードマップを作成することにした。



(2) 周知

マップの作成には情報科の教員の協力を得て、実際の地図を用いた。全校生徒に知ってもらいたいため、一人ひとりにマップを渡した。また、注意喚起が長く続くように、掲示板用に拡大したものを作成した（右写真）。

3 生徒の感想

(1) 主体となった生徒の感想

- ・今回ハザードマップを作ってみて、今まで危険な場所として知られていた箇所以外に、新しく見つかったところがあり、有意義であった。今後は更にマップの範囲を拡大していきたい（2年男子）。
- ・ハザードマップを作成するだけで満足するのではなく、実際に気をつけて行動しなければ事故はなくならないと思うので、まず自分自身から実行したい（1年女子）。

(2) 働きかけを受けた生徒の感想

- ・思っていたよりも危険な場所がたくさんあることが分かった（2年男子）。
- ・危険だという意識が生まれて、今後気をつけようと思った（2年女子）。
- ・細かく注意書きがされていて、とても分かりやすかった（2年女子）。
- ・事故ができるだけ起きないように気をつけたい（1年男子）。
- ・今後その場所を通るときには気をつけようと思った（1年女子）。

4 成果と課題

生徒が作成して配付したので、注目度が高かった。生徒への意識付けという部分では効果があったと考える。今後は、実際の危険回避行動がどのようになされているかを調査し、指導していきたい。

学 校 名	山口県立厚狭高等学校
取組のタイトル	災害ボランティア講演会 いのちを守る防災教育
取組の概要	東日本大震災や山口・島根豪雨災害などの災害ボランティアの経験が豊富な学校防災アドバイザーの実地での話を聞くことにより、災害ボランティア活動についての理解を深め、社会の安全に貢献できる力を身につける。 気象や自然災害の専門家を招いて、特に大雨を想定した災害について防災気象情報等について学ぶとともに、ワークショップ形式のグループ学習で災害リスクなどへの知識を深める。

災害ボランティア講演会

1 計画の内容

- (1) 山口県学校防災アドバイザーから、「災害」、「防災」、「ボランティア」とは何かについて学ぶ。
- (2) 東日本大震災や山口・島根豪雨災害の被災地でのボランティアの様子や、その活動内容などを、写真を見ながら理解する。
- (3) ボランティア活動をする際の心構え、山口県高校生ボランティアバンクの紹介、これから災害に対して最も注意すべきことの3点についての説明を聞く。

2 活動の様子

- (1) 「災害とは？」と問われて簡潔に答えられる人は多くないと思われる。そのようなイメージではわかっていることに対して明快な説明があるとともに、それに対する備えや心構えなどにも言及され、生徒が納得できる話であった。
- (2) 石巻市での被災地支援の様子や、阿東町でのボランティアの状況を写真で紹介しながら、様々な体験を聴くことができた。災害ボランティアというと、家の片づけを手伝ったり、泥だしをしたりを思い浮かべるが、災害ボランティアにも様々な活動があることをアドバイザーから紹介され、生徒も興味深そうに聞いていた。
- (3) ボランティア時の注意事項と、心構えについて、
 - ・危険を予測する ・「がんばって。」 ・笑顔を忘れない。 ・「そうですね。」
 - ・「いまどんな気持ちだろうか。」 ・こども ・大きく物事を見る。
 - ・ボランティアは行政のように平等でなくていい。
などのキーワードを使って話された。生徒にとって意外なものもあり、熱心に話を聞いていた。

3 生徒の感想

- ・災害ボランティアというと「力仕事」のようなイメージがあって、自分には無理かなと思っていたけれど、今日のお話を聞いて自分にもできそうな気がした。これから災害が起こった時には勇気を出して参加してみたい(2年女子)。
- ・被災地の状況もよくわかったが、それよりも被災した人たちの気持ちや子どもたちの思いが分かってよかった(1年女子)。

4 成果と課題

本校がボランティア活動に積極的に取り組んでいることもあり、ボランティアに対する意識の高い生徒は多い。また、地区内では5年前に水害が発生しており、このようなボランティアに興味をもつ生徒も多い。この講演会を通じて災害ボランティアに対するハードルが下がったように感じる。

いのちを守る防災教育

1 計画の内容

(1) レクチャー

専門家（下関気象台 気象情報官）とファシリテータ（本校地学教諭・気象予報士）が、大雨による災害と気象台から発表される防災気象情報について説明する。

(2) グループワーク

グループごとに異なった条件（地形・住居・家族構成）設定の下、大雨災害時における各ステージで、どのような行動をとるか話し合う。

(3) まとめ・発表

グループワークでの話し合いをまとめて、グループごとに発表し意見交換を行う。また、専門家が各班の発表にコメントする。



2 活動の様子

(1) 説明により、大雨は自分たちにとって身近な出来事であり、自分の住む地域でも、いつかはわからないが、大雨によって災害が起きるかもしれないということを実感していた。その対策として、各種ハザードマップにより地域の災害リスクを知り、避難場所や避難ルートを知ることが重要だと理解していた。

(2) 4～5人のグループに分かれ、架空の町の住人としてハザードマップにより災害リスクを確認し、どのような避難準備が必要かについて話し合った。生徒はそれぞれの班で熱心に話し合い、時に専門家のアドバイスを受けながら、発表資料を作成した。

(3) それぞれの班が作成した資料を用いて発表した。他の班の生徒も、自分たちとは違う設定の場面での避難行動の仕方について熱心に聴いていた。

3 生徒の感想

- ・自分たちの町も、5年前に大きな水害があったので、これからも起こる可能性は高いと思う。日頃から防災情報などに気を付けておこうと思った（3年男子）。
- ・今まではニュースなどで、豪雨災害や土砂災害などを見ても、どこか他人事のような気持ちで見えていたと思う。今日家に帰ったら家族で災害時の避難方法などについて話しておきたい（3年女子）。

4 成果と課題

事前アンケートと事後アンケートを比較してみると、明らかに参加生徒の災害に対する意識が高まっていることが分かる。今回は気象台から専門家を招いて行ったが、クラスなどを単位として、全校生徒を対象としたものが校内で実施できると良い。

学 校 名	山口県立小野田工業高等学校
取組のタイトル	(1) 生徒会による交通安全指導及びあいさつ運動 (2) スマートフォン使用の実態についてのアンケート調査
取組の概要	(1) 生徒会役員が、週3回交通安全指導並びにあいさつ運動を実施。 (2) スマートフォンについてのアンケートを全校に実施。アンケート結果から、特に注意すべき点を3つ選び、生徒に呼びかけた。

1 計画の内容

(1) 生徒会による交通安全指導及びあいさつ運動

生徒会役員が、2学期中間考査までは毎日、それ以降は週3回、交通安全指導を行う。併せて、あいさつ運動を実施する。また、警察署と協力し、反射板のついていない自転車に生徒会役員が反射板を付ける。

(2) スマートフォン使用の実態についてのアンケート調査

2学期のLHRを利用して、本校のスマートフォンの使用に関するアンケートを全校生徒を対象に実施。その結果を集計し、特に生徒に気を付けてほしい数点を取り上げて、生徒会役員から生徒に呼びかける。

2 活動の様子

(1) 生徒会による交通安全指導及びあいさつ運動

生徒会役員が、学校前の交差点で交通安全指導とあいさつ活動を行った(写真1)。

また、秋の交通安全運動実施中は、安全委員と協力しての交通安全指導も行った(写真2)。



(写真1)



(写真2)

さらに、小野田警察署と協力して、反射板が付いていない自転車に生徒会役員が反射板を取り付ける活動を行った(写真3、4)。



(写真3)



(写真4)

- (2) スマートフォン使用の実態についてのアンケート調査
アンケート用紙、集計結果は別添のとおり。

3 生徒の感想

- (1) 生徒会による交通安全指導及びあいさつ運動
- ・こちらから元気よく挨拶をしましたが、挨拶を返さない人が何人かいて残念だった。これからは、今以上に挨拶に力を入れていきたいです(2年男子)。
 - ・校内は自転車を押すことになっているけれど、ほとんどの人がちゃんと守っていました。よかったと思います(2年男子)。
- (2) スマートフォン使用の実態についてのアンケート調査
- ・思った以上に、自分の携帯使用料を知らない人が多いと思った(3年男子)。
 - ・これまでスマホの使用について調べたことがなかったが、今回アンケートを実施して、本校の実態が分かってよかった(3年男子)。
 - ・ほとんどの人がスマホを持っているので、これからはマナーなどについて考えないといけないと思う(3年男子)。

4 成果と課題

- (1) 生徒会による交通安全指導及びあいさつ運動
- 今年度は、手始めとして校門と学校前の交差点での交通安全指導となった。これまで教員だけが交通安全指導を行っていたが、生徒会役員が声かけを行うことで、生徒同士で交通安全や挨拶に気を付けようという意識が芽生えたのではないかと思う。
- 来年度以降は、通学路上の危険個所での交通安全指導なども行っていきたいと考えている。また、生徒会役員だけでなく、安全委員も参加するようにしたい。
- (2) スマートフォン使用の実態についてのアンケート調査
- 今年度初めて、本校のスマートフォンの使用に関する実態調査を行った。9割以上の生徒がスマートフォンを所有している実態が初めて分かった。本校でも、コミュニティサイト等を介した生徒同士のトラブルも起こっているため、これからはコミュニティサイト等との付き合い方などのマナー指導を徹底していきたい。
- 来年度も引き続きアンケートを実施し、生徒への呼びかけを継続的に行っていききたい。

()科()年

スマートホンの使用に関するアンケート



生徒会

今回、生徒会では小工のスマートホン使用の実態を調査することにしました。集計結果については後日プリントなどでお知らせしたいと思います。ご協力をお願いします。

該当する欄に を記入してください。

質問事項	はい	いいえ	どちらとも言えない
1 スマホを持っている。・・・・・・・・・・・・・・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
(以下、1ではいと答えた人は回答してください。)			
2 いつもスマホがないと不安になる。・・・・・・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 スマホに夢中になって時間を忘れてしまうことがある。・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 今までに授業中にスマホを操作したことがある。・・・・・・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5 スマホを1日に何回も充電する。・・・・・・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6 自分のスマホのひと月の料金を知らない。・・・・・・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7 人と会話するよりスマホの画面を見ている時間の方が多い。・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 文字のやり取りで相手にうまく意図が伝わらないことがある。・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 スマホにしてから睡眠時間が短くなった。・・・・・・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 食事中もスマホを操作している。・・・・・・・・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	Mixi	twitter	Facebook	LINE	Ameba
11 いつも使っているコミュニティサイトを教えてください。〔複数回答可〕	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	その他 (具体的に記入してください。)				

12 スマホの使用に関して、思っていることを自由に記入してください。

御協力ありがとうございました。

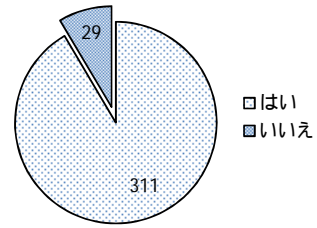
スマートフォンの使用に関するアンケート 集計結果

2014/10/17 実施

1 スマートフォンを持っている。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	36	35	38	109	37	36	36	109	27	30	36	93	311
いいえ	3	4	2	9	3	4	2	9	8	2	1	11	29
合計	39	39	40	118	40	40	38	118	35	32	37	104	340

91.5
8.5

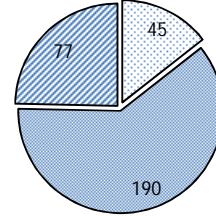


□はい
□いいえ

2 いつもスマホがないと不安になる。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	1	3	10	14	7	3	9	19	5	3	4	12	45
いいえ	27	26	18	71	17	19	22	58	16	21	24	61	190
どちらとも言えない	8	6	10	24	13	14	5	32	7	6	8	21	77
合計	36	35	38	109	37	36	36	109	28	30	36	94	312

14.4
60.9
24.7

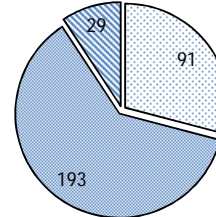


□はい
□いいえ
□どちらとも言えない

3 スマホに夢中になって時間を忘れてしまうことがある。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	9	8	11	28	13	9	15	37	6	12	8	26	91
いいえ	27	23	23	73	19	23	19	61	17	16	26	59	193
どちらとも言えない	1	4	4	9	5	4	2	11	5	2	2	9	29
合計	37	35	38	110	37	36	36	109	28	30	36	94	313

29.1
61.7
9.3

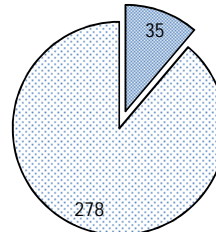


□はい
□いいえ
□どちらとも言えない

4 今までに授業中にスマホを操作したことがある。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	2	5	5	12	1	8	0	9	1	6	7	14	35
いいえ	34	30	33	97	36	29	36	101	27	24	29	80	278
合計	36	35	38	109	37	37	36	110	28	30	36	94	313

11.2
88.8

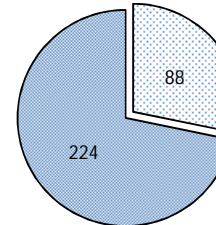


□はい
□いいえ

5 スマホを一日に何回も充電する。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	2	9	12	23	8	10	12	30	6	16	13	35	88
いいえ	34	26	26	86	29	26	24	79	22	14	23	59	224
合計	36	35	38	109	37	36	36	109	28	30	36	94	312

28.2
71.8

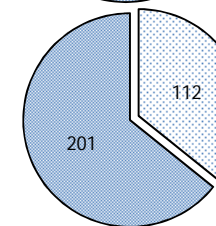


□はい
□いいえ

6 自分のスマホの1か月の料金を知らない。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	11	15	15	41	16	13	15	44	2	10	15	27	112
いいえ	26	20	23	69	21	23	21	65	26	20	21	67	201
合計	37	35	38	110	37	36	36	109	28	30	36	94	313

35.8
64.2

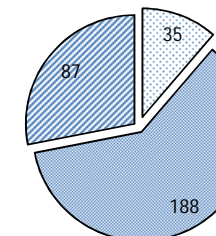


□はい
□いいえ

7 人と会話するよりスマホの画面を見ている時間の方が長い。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	4	1	6	11	4	3	7	14	5	5	0	10	35
いいえ	23	22	21	66	18	21	20	59	18	19	26	63	188
どちらとも言えない	9	12	11	32	15	12	9	36	3	6	10	19	87
合計	36	35	38	109	37	36	36	109	26	30	36	92	310

11.3
60.6
28.1

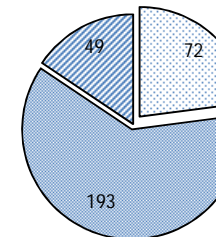


□はい
□いいえ
□どちらとも言えない

8 文字のやり取りで相手にうまく意図が伝わらないことがある。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	7	10	6	23	10	8	9	27	7	12	3	22	72
いいえ	25	20	29	74	21	20	20	61	15	15	28	58	193
どちらとも言えない	6	5	3	14	6	8	7	21	6	3	5	14	49
合計	38	35	38	111	37	36	36	109	28	30	36	94	314

22.9
61.5
15.6

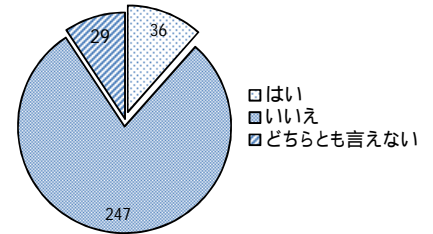


□はい
□いいえ
□どちらとも言えない

9 スマホにしてから睡眠時間が短くなった。

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	3	3	6	12	6	3	8	17	0	7	0	7	36
いいえ	29	29	28	86	25	30	25	80	26	22	33	81	247
どちらとも言えない	4	3	4	11	6	3	3	12	2	1	3	6	29
合計	36	35	38	109	37	36	36	109	28	30	36	94	312

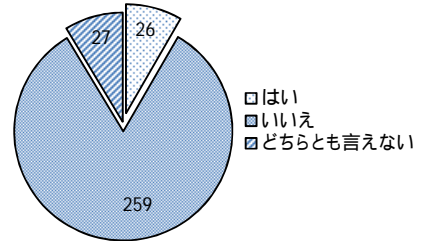
11.5
79.2
9.3



10 食事中もスマホを操作している。

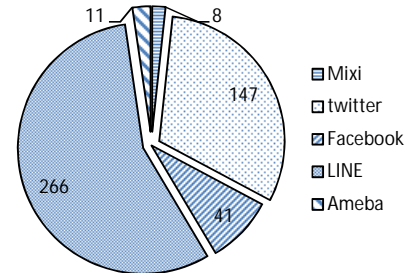
	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体
はい	2	5	6	13	2	1	3	6	2	4	1	7	26
いいえ	32	27	29	88	33	31	30	94	21	24	32	77	259
どちらとも言えない	2	3	3	8	2	4	3	9	5	2	3	10	27
合計	36	35	38	109	37	36	36	109	28	30	36	94	312

8.3
83.0
8.7



11 いつも使っているコミュニティサイトを教えてください。〔複数回答可〕

	機1	情1	化1	1年	機2	情2	化2	2年	機3	情3	化3	3年	全体	%
Mixi	1	0	0	1	0	2	1	3	1	1	2	4	8	2.6
twitter	12	18	15	45	16	19	21	56	13	16	17	46	147	47.3
Facebook	1	3	3	7	2	6	4	12	4	8	10	22	41	13.2
LINE	25	26	32	83	33	35	34	102	24	23	34	81	266	85.5
Ameba	0	0	0	0	0	1	4	5	2	2	2	6	11	3.5
その他					カカオトーク				skype ingrees					



12 スマホの使用に関して、思っていることを自由に記入してください。

- ・とても便利だが、必要以上に使ってしまう。
- ・さわりすぎはよくない。
- ・友達がゲームにはまっているのを見て、気持ち悪いと思っています。
- ・便利でも、使い方を誤ると怖い。
- ・便利。離れていてもつながれる。
- ・依存の人ばかりだと思う。
- ・知らない人から、LINEが来る(すぐに消している。)
- ・スマホは必要ないと思う。スマホはなくても生きていけるし、スマホにとらわれた生活はいやだ。
- ・ひまつぶしにちょうどいい。
- ・周りに迷惑をかけないように使いたいと思う。
- ・時間を決めて使用する。
- ・スマホはとても便利だし、今、時代はスマホだと思う。でも、ケータイに振り回されないようにしたい。
- ・便利だけど、スマホばかりに気を取られてしまう。
- ・使い方を間違わなければ便利である。
- ・一度使いだすと止まらなくなる。
- ・手軽にインターネットが使えて便利。
- ・長時間スマホを操作するのは目に悪いので、なるべく控え目に使用した方がいいと思います。
- ・ビジネスツールとしての使用。
- ・最近、スマホ関係の事件が増えているので気を付けて使いたい。
- ・ゲームとかできて面白い。友達と連絡がすぐ取れるのでいいと思う。
- ・気を付けて使わないと、トラブルが起きてしまう。
- ・ネットが使えるから、調べたいときに調べられて便利だと思う。
- ・使い方によっては悪い方向に行ってしまうが、正しい使い方をすれば全く問題はないと思う。
- ・とても便利だと思う。が、便利すぎて逆になんか裏ではものすごいことが起こっていきそう。
- ・スマートフォンからのコミュニティサイトやインターネットの危なさについて知らない人が多すぎる。そういう人は、スマートフォンを持つべきではないと思う。
- ・最近ではできるだけ操作しないようにしている。操作しすぎはよくない。
- ・使いすぎると目が痛くなる。GPSとか便利。
- ・調べたりすることが早くなったので、いいと思います。
- ・これからの時代にスマホは必要。
- ・すばらしい！人類の大発明だ！
- ・もうちょっと使い方を考えた方が良い。
- ・スマホに左右されて時間を無駄にするようなことは絶対にしたくないと思っています。
- ・ながらは危ない。
- ・スマホ中毒

- ・マナーを守る。
 - ・便利なものだが、使い次第で危険なことに巻き込まれることもあると思う。
 - ・歩きスマホ危ない。
 - ・正しい使い方をすべきだと思う。
 - ・悪い物と思っていない。とっても便利。
 - ・アプリなどが増えているので、スマホを見る時間が多くなった。
 - ・スマホばかり触っていると、ダメになると思う。
 - ・スマホを操作している人を最近多く見かけると思う。
 - ・スマホを操作しながら話をする人が多いと思う。
 - ・スマホは人間をダメにする。
 - ・有料と無料のものが分かりづらい。
 - ・ゲームは飽きた。
- ・僕は最近日に日にスマホを操作する時間が短くなっています。どんどんすすんでいく情報化社会においていかれたのかもしれませんが、でも、取り残された世界の中で得たものがあります。それは人とのコミュニケーションです。これからも大切にしていきたいです。
- ・スマホのひと月の料金が高い。
 - ・やばい。
 - ・スマホは必需品。
 - ・勉強をしている時に少し休憩をするときにスマホを操作していると少し休憩が長くなっていると思う。
 - ・今は自転車は車を運転している時にスマホを操作している人がいるので、やめてほしい。
 - ・とても便利なものであるが、同時に便利さがあだになる場合がある。
 - ・メディアの問題が増えつつあると思うので、もっと人と会話した方がいい。
 - ・最近本当に必要なのが分からなくなってきた。
 - ・スマホは便利だが、使い方には細心の注意が必要だと思う。
 - ・使いすぎないように注意する。
 - ・企業では会話がなくなるという理由で、ガラケーを進めて、会話がなくなったところもあるそうです。
 - ・月々の使用料が高いと思いました。
 - ・ルールとマナーを守ってほしい。
 - ・遠くの人とも会話でき便利だと思う。
 - ・とても便利だし、必要だと思う。
 - ・スマホを使用することで、私生活が乱れるのはよくないことだと思います。
 - ・基本無料ゲーム内に有料アイテムを買ってしまう小学生が怖いです。
 - ・目が悪くなった。
 - ・未成年の人はフィルタリングがかかっていますが、大人になってフィルタリングが解かれて問題が起こる可能性が出てくることに怖いと思った。
 - ・スマホにしてからインターネットの利用が増えたので、利用方法を気を付けたいです。
 - ・最高技術
 - ・スマホはダメ
 - ・いつでも友達と話したり、計画を立てたりできるので、そこは便利だと思う。
 - ・危ない。
 - ・ニュースなどが気軽に見れて便利。
 - ・ゲームなどもあまりダウンロードしてなく、ただ連絡用としか思っていない。
 - ・ただの電話、メール、ゲーム。
 - ・考えて行動すれば問題ないと思う。
 - ・スマホを手にする、勉強できなくなった。通話目的ではなくて、子どものほとんどはゲーム目的なのかなと思った。
 - ・スマホの使用時間を減らそうと思います。
 - ・スマホを持ってから、色々悪いことが起こるようになった。睡眠時間が減った。
 - ・いつでも親に連絡できるので便利。
 - ・会話が減る。
 - ・ルールさえ守って使えば問題ないと思います。
 - ・やめたいけど、やめられない。
 - ・ゲームばっかして勉強に集中できない。
 - ・自分自身は、あまり良くない道具だと思います。いい部分もあるけど、7割ぐらいが生活習慣を乱すサイトだと思います。スマホを始めたばかりなのでよく分かりませんが、最近ではLINEの事件が多くなってきました。スマホがいいのか悪いのか、分かりません。
 - ・スマホを持っていると、勉強時間が少なくなってしまう。

学 校 名	山口県立美祢高等学校
取組のタイトル	携帯電話等の利用状況に関する意見交換
取組の概要	携帯電話等の利用に関して、美祢警察署の主催で、美祢市内の高校生にアンケート調査を行い、その結果をもとに高校生同士による危険な状況や個人で注意すべきこと等に関する意見交換を行った。

1 計画の内容

(1) 事前アンケートの実施

地域の青少年の健全育成を図ることを目的とし、高校生の携帯電話等の利用状況を把握するために美祢警察署が作成した携帯電話等の利用に関するアンケート調査を、本校全生徒を対象にして行った。

(2) アンケート結果の検証

全生徒の回答を生徒会役員を中心として検証し、トラブルの有無、危険な行為の認識度等をまとめ、生徒への注意喚起を促すとともに、意見交換に備えた。

『参考』：「全校生徒12名（男子8名・女子4名）」

項 目	割合(%)	内訳(人数)	割合(%)
携帯電話・スマートフォン等の保持	100	スマートフォン(9)	75
		携帯電話(2)	17
		その他(1)	8
携帯電話等の使用によるトラブル	0	トラブル経験者なし	0
セキュリティソフトの利用状況	58	使用している	58
		わからない	42

2 活動の様子

(1) 3校による意見交換

実施期日：8月12日(火)

実施主体：美祢警察署 実施場所：美祢警察署

参加者：美祢青嶺高生徒12名・成進高生徒3名・美祢高生徒3名・少年相談員1名
サイバーボランティア1名・美祢警察署生活安全課3名

3つの班に分かれ、「想定事例」をもとに、A班は原因、B班は危険性、C班は今後の対応について討論し、発表を行った。

(2) 警察署及び専門家からの指導助言

事前アンケート結果をもとに、美祢警察署生活安全課及び少年相談員の方から、利用に関する危険な状況の説明を受けた。

(3) 本校での指導

意見交換及び市内高校生のアンケート調査の結果を、後日校内で検証した。



3 生徒の感想

- ・知っているようで知らない同年代の携帯電話等の利用状況や、携帯電話利用に関する他の人の意見を知ることができて良かった(3年男子：意見交換参加者)。
- ・自分は携帯電話の利用においてトラブルに巻き込まれたことはないが、同じ市内の高校生でも、被害にあっていて人がいるのを知り、身近に感じた。危険な状況をしっかりと

知っておくべきだと思った（3年女子：アンケート回答者）。

4 成果と課題

同年代の他校の生徒の利用状況を知り、携帯電話利用に関する様々な意見を聞き、自分に置き換えることができたのは非常によかった。

意見交換を通じ、大人側が思っている以上に、生徒は携帯電話等の利用についてきちんと向き合っているように感じることができた。

学 校 名	山口県立青嶺・美祢青嶺高等学校
取組のタイトル	風紀委員会による自転車施錠キャンペーン
取組の概要	生徒会の風紀委員会の生徒により、美祢警察署との共催で本校駐輪場において自転車の施錠を啓発する活動を実施した。

1 計画の内容

- (1) 最寄り駅駐輪場などでの自転車盗難防止のため、学校駐輪場での無施錠自転車の点検を実施。
- (2) 美祢警察署及び安全パトロールの方々に協力していただき、チェーンキーでの施錠を実施。

2 活動の様子

- (1) 本校駐輪場での無施錠自転車の確認
- (2) 美祢警察署から寄贈していただいたチェーンキーによる施錠
- (3) 無施錠自転車を1か所に集め、ステッカー番号を確認
- (4) 放課後に申し出た生徒に対する施錠の指導
- (5) 学校駐輪場に『ツーロック』を呼びかけるのぼり旗を設置



3 生徒の感想

- ・施錠していない自転車が思ったより多かった（2年男子）。
- ・駐輪場にごみが多かった（1年男子）。



4 成果と課題

安心・安全をモットーとする本校では、自転車についても毎年度当初に自転車点検を実施し、合格した者にだけ自転車通学を許可している。このような取組は毎年行っており、一定の成果はあげていると思われる。

一方で無施錠の自転車が相変わらず多く、盗難を防止することがなかなかできない。

警察等とも連携しながら、今後はより有効な方法を検討する必要があると感じている。



学 校 名	山口県立田部高等学校
取組のタイトル	実践的な救急法を学ぶ
取組の概要	地域の消防署から専門家を招へいし、実践的な救急法を習得するとともに、将来、地域社会の安全に貢献できる主体的な態度を養う。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 講師 下関市豊浦東消防署菊川出張所救急隊員等</p> <p>(2) 受講生徒 本校総合生活科2年・食物福祉コース29名</p> <p>(3) 内容等 日時・場所 平成26年6月2日午前9時55分から12時45分まで 本校会議室 講 話 「救急法の基礎・基本について」 実技1 「応急手当について」 実技2 「心肺蘇生法について」 まとめと振り返り</p> <p>2 活動の様子</p> <p>本校総合生活科食物福祉コースの生徒は、授業では、救命法や家庭看護等についてすでに学んでいるものの、専門家による実践的な講話や実技指導等ははじめてである。</p> <p>このため、気道の確保の仕方や自動体外式除細動器(AED)の使い方の基礎を習得することができた。特に胸骨圧迫は人形を使って一人ひとりが実践することで、心肺蘇生の実際を学べ大変有益であった。また、生徒たちが、将来、社会人として、その知識や技能を生かせることにつながると期待できる。</p>  <p>3 生徒の感想</p> <p>今回の実習では、AEDの使い方を知ることができてよかったです。胸骨圧迫は、保健の授業で行ったことはありますが、AEDを使用したことはありませんでした。テレビなどではAEDは簡単と言っていますが、実際は今日まで、どういうものなのかわかりませんでした。今回、このような実習が体験ができたので、もしものときは、今日学んだことを実際に生かせるようにしたいです(2年女子)。</p> <p>実技講習をやってみて、気道の確保が一番難しかったです。思ったより力があるのでびっくりした。胸骨圧迫も、1分間に100回もしないといけない上に、一番近い地域の消防署から田部高校までに5分かかると聞くと、これはきついなと思いました。もしもこんな状況になったら、きちんとできるか自信ないけど、今日学んだことを忘れず、あわてないように実行したいです(2年女子)。</p> <p>これまで、心肺蘇生をしなくてはならない現場に出会った時、自分は勇気を出してやることができるかなと思っていました。しかし今回、ビデオを見て、自分がやらなくて誰がやるんだと思いました。ためらわず、勇気を出して行うことが大切だと思いました(2年女子)。</p> <p>4 成果と課題</p> <p>気道の確保や胸骨圧迫、自動体外式除細動器の使用方法など実践的な内容であり、生徒も高い関心をもって実技講習に参加した。こうした実技講習の繰り返し、生徒が学校で身につけた知識・技能を今後の社会生活の中で生かすことや、地域の安心安全に貢献する主体的な行動力につながると考える。</p>	

学 校 名	山口県立西市高等学校
取組のタイトル	危険箇所マップの作成
取組の概要	生徒会役員の生徒で学校周辺の危険箇所マップの作成を行った。

1 計画の内容

(1) 危険箇所マップの作成

安全に学校生活を送るため、生徒会活動として学校周辺の危険箇所マップの作成に取り組んだ。

学校周辺の地図を用意し、それを基に危険箇所の調査を行った。その際に、落ちているゴミなどの清掃活動も併せて実施した。

1月に約2週間かけて危険箇所マップの作成に取り組んだ。

2 活動の様子

(1) 学校周辺の危険箇所の調査

歩道には陥没していたり亀裂が入っている箇所があった。

歩道が広い場所では街灯がなく、日が暮れると柵が設けられていないところでは、歩道と田んぼの境がわからず落ちてしまう危険性がある箇所が多くあった。

ゴミ拾いの清掃活動を行いながら調査を行った。人通りの少ない道にも路肩に捨ててあるゴミは多く、調査の度にゴミ袋がいっぱいになった。



(陥没した歩道)



(老朽化したベンチ)

(2) 危険箇所マップの作成

調査した地図を基に、危険箇所マップの作成をした。

マップの中には、どう危険なのかを示した説明を加えてより分かりやすいように工夫した。



(調査途中での清掃活動の様子道)

3 生徒の感想

「豊田町を歩いて調査すると溝や段差など注意してみると想像以上に危険と感じる箇所があり、驚いた。危険箇所よりもゴミの多さの方が目立った。」「中心部は整備されていたが、離れていくにつれ、街灯が少なくガードレールが少なくなっていると感じた。道路が狭いので歩行時や自転車に乗っているときは注意しなければ車と接触する危険性があると感じた。」



(危険箇所マップ)

4 成果と課題

危険箇所マップ作成のため学校周辺を調査した結果、路肩にはたくさんのゴミが捨ててあり、老朽化したものや歩道の陥没、車道には割れた瓶やカッターナイフの刃までが落ちていた。通学路は歩道がない箇所や歩道があっても極端に狭い箇所が多く、常に車に注意しなければならない。今回の活動を通して、生徒が学校周辺について危険箇所や地域の状態が把握できたことと、清掃活動も同時に行ったことから活動後に達成感を得ることができた。今後もこの取組を継続していき、新たに危険箇所が増えていないかどうかや、改善され安全になった箇所の調査などを実施していきたいと考えている。

学 校 名	山口県立豊浦高等学校
取組のタイトル	(1) 津波を想定した防災対策 (2) 高校生による地域の防犯活動・交通安全運動
取組の概要	(1) 地域の清掃活動と並行して、津波発生時の避難場所を確認する。 (2) 県警と連携し、少年リーダーズによる「スーパーでの万引き防止活動」・「長府駅前駐輪場の自転車施錠状態の調査及び啓発活動」、サイクル・スクールリーダーズによる交通安全啓発活動を行う。

1 計画の内容

(1) 防災対策

LHRの時間(地域の清掃活動日)を利用する。
1・2年生対象。学年別に異なる日に実施する。
海に隣接している本校が津波に襲われたときの状態を想定し、本校の近くにある松原公園が避難場所として適切であることを確認するため現地に赴く。
その後、地域の清掃活動をしながら帰校する。

(2) 防犯活動・交通安全運動

防犯活動

長府警察署と連携して行う。
少年リーダーズ(生徒会役員、部活動有志等)による。
スーパーマーケットにおける商品陳列状態や店内の配列、万引き防止対策等を調査し、気づきを述べる。
長府駅前の駐輪場に止めてある自転車の施錠状態を調べ、不十分な物は注意を促す札を付ける。また、駅利用者に対し、チラシや鍵を配ることで啓発活動を行う。

交通安全運動

長府警察署と連携して行う。
サイクル・スクールリーダーズ(風紀委員)による。
登校時に実施する。
交通安全県民運動に合わせ、学校前の主たる交差点近くの道路沿いにて、のぼり旗を持って立ち、特に本校生徒自転車通学者に対し、啓発活動を行う。

2 活動の様子

(1) 防災対策

学校の立地場所から考えて、地震による津波は充分起こりうることを認め、避難場所及び避難場所までの距離、避難場所の状態(場所の広さ、海拔等)等を確認することの重要性を理解できたと思われる。特に、長府地区以外に住んでいる生徒にとっては、新発見の感覚で確認できたようである。

しかし、実際に経験のないことであり、津波の高さは想像できていないと思われる。

(2) 防犯活動・交通安全運動

防犯活動

スーパーマーケットでは、自分たちの視点から見た、万引きに対する危険な状態を積極的に発見していた。

駐輪場においては、駐輪してあるすべての自転車に対し施錠のチェックを行い、長府駅利用者に対し積極的に声を掛けていた。

交通安全運動

約15人が並び、横断歩道を挟んで2か所に分かれて活動した。警察との連携もあり、車道を走る車に対してもよい啓発となっていた。

3 生徒の感想

(1) 防災対策

「もし、津波が来たとき避難場所を知らなかったら。」と想像すると、今回避難場所を確認できて良かったと思う。特に、学校からの距離、海拔の確認ができたことは収穫だった。

(2) 防犯活動・交通安全運動

防犯活動

施錠されていない自転車が多いことに驚いた。特に、二重ロックはほとんどされていなかった。自転車盗難が頻繁に起こっている中、自分自身も二重ロックしなければならないと思った。

交通安全運動

豊浦高校は自転車通学生が多い。「自動車同様、常に安全運転を心がけてほしい。」と思う気持ちがわいてきた。特に、並列運転やながら運転はやめてほしい。

また、最近は脇道から、一時停車をせず飛び出してくる車が多く、自転車との接触事故も多い。交通安全への呼びかけが通じてほしいと思った。

4 成果と課題

津波発生時の避難場所を確認できたことは生徒の防災意識を高める上でも成果があったと思う。

防犯活動・交通安全運動は今年度、日程等の関係により生徒による活動を行っていないが、昨年度まで数年間継続して実施していた。今年度末や来年度実施する機会があれば行いたい。また、交通安全運動については、本校生徒の自転車利用数が非常に多いことを考えると、生徒会新聞の呼びかけ等、よりいっそう生徒自身の積極的な啓発活動を期待したい。

学 校 名	山口県立長府高等学校
取組のタイトル	下関市避難所生活体験活動に参加して
取組の概要	文部科学省「学校防災総合対策事業」の一環として行われた下関市避難所生活体験活動に参加し、大規模災害の発生に備えて多くのことを学んだ。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 大規模災害が発生したとの想定のもと、避難所（近隣の中学校体育館）に避難し、そこでの避難所生活を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボール等で寝床を準備し、就寝する。 ・備蓄食料（アルファ化米や乾パン）を自分たちの製作した食器を使って食べる。 <p>(2) 講話により、詳しい知識を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長府中学校教頭から地元の長府地域における災害について学ぶ。 ・下関地方気象台の職員から台風・高潮発生メカニズムと対応について学ぶ。 ・下関市水道局の職員から水の大切さや給水車の役割・利用について学ぶ。 <p>(3) 各実習を通して災害時に役立つ知識や技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズ（ランタン・雨合羽・紙食器）を製作する。 ・消防署職員により、応急措置や心肺蘇生、ロープワークの実習をする。 <p>(4) グループ協議を通して災害発生時の自分たちの立ち位置を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に自分たちのできる事や自分たちの役割について協議し、全体で発表する。 <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 避難所生活の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団の中で最年長である高校生が中心となって様々な活動に取り組む。 ・防災グッズの製作や寝床づくり、食事の準備等リーダーシップを取って小中学生とともに協力して活動を進める。 <p>(2) グループ協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同年齢の集団に分かれて、私たちだからできること、私たちのすべきこと等を協議し、発表する。 <p>(3) 活動を通して学んだことを長府高校の生徒に伝え、大切なことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会で自分たちが体験したことや学んだこと、考えたことを発表し、生徒全員にいつ起こるかかわからないいざという時のことを普段から考えておこうと呼びかける。 <p>3 生徒の感想</p> <p>二日間実際に避難所生活体験をして、みんなで協力するということの大切さや普段何も考えずに当たり前に使っている物のありがたさを身にしみて感じることができました。本当に災害があった時はこの経験を生かしてみんなで助け合いたいと思います（高校2年生女子）。</p> <p>4 成果と課題</p> <p>実際に備蓄食料を食べたり寝泊まりするなど、身をもって避難所生活を体験することにより、東日本大震災の被災者の方々に思いを寄せることが少しでもできたように思う。これを参加者だけに終わらせるのではなく、全校生徒にこの思いと学んだこと、そしていざという時に行動できるよう伝え広めていくことが課題である。</p>	

学 校 名	山口県立下関西高等学校
取組のタイトル	生徒会生徒による薬物乱用防止についての事例発表
取組の概要	生徒会の生徒が、市薬物対策協議会主催の「中・高校生のための薬物乱用セミナー」で、事例発表を行った。

1 計画の内容

(1) アンケートの実施

本校生徒が「危険ドラッグ」について、どれくらい関心をもっているかを調査するためにアンケートを行った。

(2) 薬物依存症リハビリ施設の訪問

薬物依存の怖さや実情を知るために、北九州市にある民間施設を訪問し、施設運営者や治療を受けている人の話を聞いた。

2 活動の様子

(1) 「中・高校生のための薬物乱用防止セミナー」での発表

平成26年8月20日(水)に、下関市民会館で「知られざる危険ドラッグ～法の影に潜む恐怖～」と題して、事例発表を行った。市内の各中学校、高校生が集まり、熱心に発表を聞いていた。アンケート結果の報告、薬物の種類と危険性、薬物依存症リハビリ施設での体験談等を発表した。



(2) 全校終礼での発表

11月18日(火)の全校終礼で、本校生徒を前に、発表を行った。毎年、講師を招いて「薬物乱用防止教室」を開いているが、本校生徒の発表でもあり、実際の薬物依存リハビリ施設での話しなど、薬物依存の怖さを身近に感じたようであった。



3 生徒の感想

- ・最初まで、「危険ドラッグ」などの薬物は、自分とは縁遠い無関係なものだと思っていたが、施設に行って、危険が身近にあることを実感した(生徒会2年男子)。
- ・施設を訪問するまでは、とても怖いところなのではないかと思っていたが、実際に行ってみると、自分の偏見であることを痛感するとともに、普通の人でも薬物依存になってしまうのだと、改めて実感するとともに、身近に危険が潜んでいることを感じた(生徒会2年女子)。

4 成果と課題

同じ高校生の発表ということもあり、また、実際の施設での体験の話も聞くことができ、薬物の危険性を身近に感じたようであった。

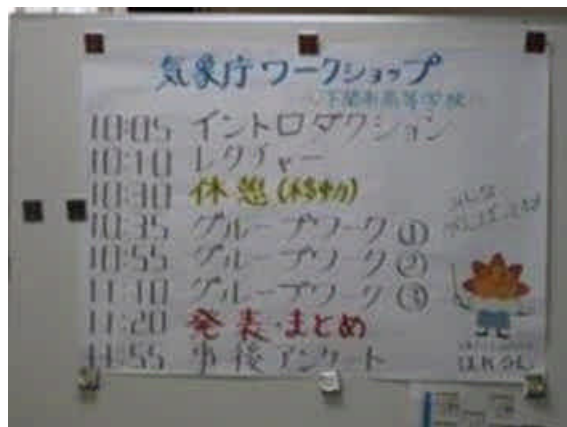
今回は、下関市薬物対策協議会の要請で発表を行ったが、今後この取組をどう継続していくかが課題であると思われる。

学 校 名	山口県立下関南高等学校
取組のタイトル	気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 そのときどうする？」に参加して
取組の概要	「防災意識を高め、実際の行動につなげるため、自らの問題として日頃からの備えや適時適切な防災気象情報の入手と、その情報を活用した安全行動を事前にシミュレートする能動的な学習方法」（気象庁HPから）である気象庁ワークショップに参加して、防災意識を高める。

1 計画の内容

ワークショップは、ファシリテーター（総合司会。主に専門家の解説や質疑応答の内容を分かりやすく伝える等の補助を行う）及び専門家（主にスライドの解説、参加者との質疑応答、講評等を行う）のリードにより、まず全体のレクチャーから始まり、グループワーク（今回は5つのグループに分かれ、どの段階で避難を始めるかなどを話し合った。）を経て、まとめをグループごとに発表して終了した。

なお、今回のファシリテーターは、TYSの気象キャスター、大波多（おおはた）美奈さん、専門家は下関地方気象台の気象予報官、草場渡さんが務めた。



2 活動の様子

(1) 全体説明 各グループで仕事内容（リーダー、記録、発表、くじ係）を確認。

(2) グループワーク ~

各グループ3名のくじ係がくじを引いて、場所（斜面か河川の近くか等）・家屋（木造か鉄骨か、2階建てか3階建てか等）・家族（家族構成や体の不自由な祖父母がいるか等）を決定する。

各グループが、くじで決定した条件（場所、家屋、家族）をもとに、気象情報（時刻経過は3段階）を聞きながら、どのような行動（どのルートを通して、どこへ避難するか等）をとるか等を話し合う。

(3) 各グループ発表・質疑



3 生徒の感想

私はこのワークショップに参加するまで、注意報と警報の違いすら知りませんでした。災害に対しての意識が甘く、自分は大丈夫、災害が起こったとしても何とかなるだろうと思っていました。しかし、災害への心構えで、「自分は大丈夫とは思わない。災害は『まさか』ではなく『いつか』起きるもの。」と認識することが大切だと言われました。また、大雨災害から身を守るためには、地域の災害リスクを知り、災害から身を守るための知識をもつことが必要だということも学びました。そして、今までの私だったら大災害に遭ったときに危険な状況になっていたかもしれないと感じました。

グループワークでは、台風が来たことを想定してどう対処するかを考えました。いろいろなことを考慮して、早めに計画を立てたり、行動を起こしたりすることが大切だということが分かりました。また、そのための事前の予備知識をもっておくことが必要なのだと身をもって実感できました。このワークショップを通して災害に対しての意識が変わったので、参加してよかったなと思います。

4 成果と課題

災害から身を守るためには、「地域の災害リスクを知る。災害から身を守るための知識をもつ」ことの大切さを生徒は理解した。また、自分の身を自分で守るには、災害情報を正確に把握し対応しなければならないことを考える貴重な体験となった。

全生徒対象に実施するには、「教員が専門的な知識をしっかりと理解しておく。」「1クラス40人を7人～8人のグループに分け実施するため、多くの時間が必要になる。」ことが課題であろう。

今回、専門家の指導であったが、終了までに2時間30分を要した。時間的なことを考えればLHRの時間単独での実施は難しい。実施方法について検討の余地がある。

学 校 名	山口県立響高等学校
取組のタイトル	学校防災講座 「学校（JRC）と消防署がタイアップ」
取組の概要	東日本大震災以降「防災」への取組が広がる中、身近で何かが起こったときに、身の安全を確保しながらも、消防署や地元消防団と連携して、高校生として地域防災に貢献できることを考えるきっかけとする講座・研修を3日間開催した。
1 計画の内容	
(1) 日時	
7月22日、23日、24日（夏休み中） 13:00～ 1時間程度	
(2) 内容	
1日目 防火指導員による火災についての講座、消火器の使い方	
2日目 コンロの消火体験、屋内消火栓の取扱い	
3日目 消防ホース接続リレー、放水体験	
(3) 対象	
JRC部員、希望生徒（全校に参加を呼び掛ける）、及び教職員	
2 活動の様子	
<ul style="list-style-type: none"> ・ JRC部員1年生と希望生徒 合計12名、教職員13名が参加。 ・ 1日目の火を扱う講座では、2名の女性指導員から丁寧な説明があった。 ・ 2日目、3日目は説明の後、体験する時間が長く、生徒も積極的に取り組み、楽しく活動していた。 	
	
	
	
	
3 生徒の感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がまず何をすべきかわかりました。この体験で学んだことを忘れず、もし身近で何か起きたとき、それを生かしたらいいなと思います。すごくやりがいのあった講座でした。 ・ 今回、いろんなことを体験してみて気づいたことは慌てないということです。でも、本当に起きたときはみんな慌てると思います。なので、こういう体験をして慌てないことが大事だと気づけて、本当にいい経験になりました。 	
4 成果と課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊浦西消防署や地元消防団員の方々の熱心な指導により、生徒及び教職員の地域防災についての知識の深化、意識の向上につながった。また、様々な体験的な活動により、実生活に役立つ貴重な体験をすることができた。 ・ 受講した生徒の感想も肯定的で、今後役に立てたいとの声が多かった。 ・ 定期的に関催できる環境づくりが必要である。 ・ より多くの生徒が参加できる方策を検討していきたい。 	

学 校 名	山口県立豊北高等学校
取組のタイトル	交通委員・風紀委員による全校生徒を対象とした「交通安全教室」
取組の概要	全校生徒を対象に、交通委員は自転車ルール・マナーについて、風紀委員は通学中のマナーについて「交通安全教室」を開いた。

1 計画の内容

(1) 交通委員による交通安全教室

事前準備

交通安全教室の2日前までに、各クラスが朝のホームルームの時間を利用し、「自転車ルール・マナーに関する検定」(石川県警作成)を実施した。実施後、交通委員が採点集計を行った。

交通安全教室当日

全校生徒が体育館に集合した後、交通委員が、採点済みの答案を生徒に返却した。各クラス交通委員が、問題に対する解説を分担して行い、最後に、交通委員長が講評を述べた(約20分間)。

(2) 風紀委員による交通安全教室

事前準備

交通安全教室の2日前までに、地域の方にインタビューを行い、ビデオ撮影をした。風紀委員がインタビューアーとなり、滝部在住の民生委員と滝部駐在所の警察官に、本校の交通に関する率直な御意見をいただいた。また、本校生徒の登校の様子をビデオ撮影した。

また、風紀委員は、JR通学、自転車通学、徒歩・バス通学の確認をし、全校生徒を縦割りの6人～7人のグループに分けた。全体で24グループになることから、体育館での移動で混乱を避けるために、事前に体育館でのグループ配置図を準備した。

さらに、風紀委員は体育館での話し合いが円滑に行われるよう、前日にワークシートを配付し、自分の意見をまとめてくるようホームルームで生徒に指示をした。

交通安全教室当日

交通委員の交通安全教室後、風紀委員長が司会となり、地域の生の声として、ビデオを上映した。その後、体育館で班別の隊形に移動し、各グループで簡単に自己紹介後、司会・記録を決め、話し合いを行った。話し合いの後、JR通学、自転車通学、徒歩・バス通学の代表のグループが、全体に対して意見発表を行い、最後に、風紀委員長が講評を述べた(約30分間)。

2 活動の様子

(1) 交通委員による交通安全教室

事前準備

「自転車ルール・マナーに関する検定」は、各学年団の協力を得て、同一日の朝のホームルーム時に実施できた。そのため、ホームルーム担任の立ち会いのもと、生徒は真剣に取り組むことができ、交通委員による採点集計もスムーズに行うことができた。

交通委員による交通安全教室

交通委員がそれぞれの問題に対して解説を行ったが、全校生徒を前に解説をするということもあり、緊張のためか、やや単調になった。



(2) 風紀委員による交通安全教室

事前準備

地域の方に直接お会いし、ビデオ撮影に協力していただいた。地域住民の生の声をいただき、インタビューをした交通委員にもよい刺激となった。また、全校生徒の通学手段の確認、グループ分け、体育館での配置図、ワークシートの内容などの準備をほとんど風紀委員が行い、主体的な取組となった。

風紀委員による交通安全教室

ビデオ上映後、グループ別での話し合いでは積極的な意見交換がなされた。しかし、その後、代表者が全校生徒を前に発表する場面では、緊張して、グループの意見をうまくまとめて話すことが不十分であった。



3 生徒の感想

- ・全体的には交通マナーはよいが、みんながよいわけではないので、今後も注意していきたい(3年男子)。
- ・スマホをしながらの通学は危ないので、やめようと思った(2年女子)。
- ・地域の人たちが、自分たちのことをどう思っているかが分かった(1年男子)。
- ・みんなの前で指示をし、まとめることは難しい(3年風紀委員長)。

4 成果と課題

例年、秋の交通安全運動の期間に、小串警察署等の協力を得て、交通安全街頭キャンペーン(家庭クラブ委員が手作りのマスコットをドライバーに配るもの)と交通安全教室を実施している。今年度は、従来の講義形式が中心となる交通安全教室を、3年間を見通し、生徒の主体性がさらに発揮できるものにしたと考えていた。そこで、今回初めて生徒による生徒のための交通安全教室を実施することになった。準備から実施に至るまで、交通委員と風紀委員が主体的に取り組んだ。さらに、それ以外の生徒も積極的に参加し、交通安全教室としては十分な成果があった。しかし、自分の意見を全校生徒を前にして発言するという自己表現力には課題もみられた。交通安全教室だけでなく様々な機会を捉えて自己表現力を育むことの必要性を切に感じた。

学 校 名	山口県立下関中央工業高等学校
取組のタイトル	生徒会及び交通委員会による交通安全キャンペーン
取組の概要	「春の全国交通安全運動」の一環としての交通安全啓発活動

1 計画の内容

- (1) 交通安全下関市対策協議会主催で、下関市羽山町近隣の高等学校5校による、交通安全キャンペーン活動。

日 時 平成 26 年 4 月 11 日 (金)

場 所 下関市羽山町 (東駅交差点マクドナルド前)

活動内容 交差点に、自作のプラカードや横断幕を持って立ち、交通安全の呼び掛けを行う。

交差点付近に配置されたパトカーからのマイク広報。

2 活動の様子

- (1) 本校生徒会および交通委員会生徒による活動報告

本校、下関西高校、下関南高校、下関商業高校及び早鞆高校の5校による街頭キャンペーン活動。本校からは生徒会14名、交通委員会の生徒14名がキャンペーンに参加。東駅交差点の四方に各校ごとに、自作のプラカードや横断幕を持って立ち、交差点を通過するドライバーに安全運転を呼び掛けた。

3 生徒の感想

いつもバスで通学していて、この交差点にあるバス停を利用しています。車がスピードを出してこの交差点を通過していく様子を見かけたことがあります。このキャンペーンに参加して、安全運転を呼び掛けることができ、よかったですと思います(生徒会 男子生徒)。

交通委員会として昨年も参加しました。僕たちの呼びかけで、少しでも交通事故が減ることを願っています(交通委員会 男子生徒)。



4 成果と課題

今年度も、このキャンペーンに参加した。生徒たちの呼びかけ等で、自動車を運転するドライバーの方々が、今まで以上に安全運転を意識してもらえるようになれば、交通事故に巻き込まれる危険性も減少していくものと思われる。

年に2回行われるこのキャンペーンであるが、今後はプラカードの製作にも工夫して、交通安全をより一層呼び掛けることができるものにしていきたいと考えている。

学 校 名	山口県立下関工業高等学校
取組のタイトル	「ダメ。ゼッタイ。」国際麻薬乱用撲滅ヤング街頭キャンペーン
取組の概要	生徒会生徒が上記のキャンペーン啓発活動を行った。

1 計画の内容

(1) 下関市薬物対策協議会の方や、他校の生徒と共に、「ダメ。ゼッタイ。」街頭キャンペーン活動を行う。

日 時 平成26年6月14日(土) 13:30~15:00 (13:00集合)
 場 所 シーモール前 ゆめタウン長府 ゆめシティ
 活動内容 薬物乱用防止啓発資料の配布、薬物乱用防止の呼びかけ
 国連支援募金活動

2 活動の様子

(1) 本校生徒会による活動報告

生徒会生徒8名による街頭キャンペーン活動。8名の生徒を2つのグループ(ゆめシティ4名、シーモール前4名)に分け、生徒一人ひとりが大きな声を出し、街頭で、薬物の危険性や違法性を呼びかけた。

また下関市薬物対策協議会の方に用意していただいた、うちわやポケットティッシュ、ボールペンなどを通行人に配布しながら、国連支援募金活動を行った。



募金活動の様子

3 生徒の感想

今回、このような機会に出会えてとてもよかったです。薬物はとても危険なものだと分かっていたが、自らこのような活動を行うことで、より多くのことを学べたと思います(3年男子)。

去年も参加していたので、去年よりも恥ずかしくなく声を出すことができました。来年も参加し、今年以上の声を出して多くの人に薬物の危険性を知ってほしいです(2年男子)。



ゆめシティでの募金活動の様子

4 成果と課題

去年に引き続き今年も参加し、生徒にとっても教員にとっても素晴らしい体験をすることができた。成果として、本校生徒は部活動加入率が高いこともあってか、生徒一人ひとりが恥ずかしがることなく、積極的に通行人の方々に声をかけることができ、薬物乱用啓発活動や支援募金活動の両方を体験できたことで、生徒に薬物の危険性や募金を必要としている人がいることを考えさせることができたのはよかったと思う。しかし一方で、通行人の方に質問をされた時に答えられなかったことなど、このような活動を行う上で生徒の予習ができていなかったことが課題だと言える。

来年度以降も参加したいと思っているので、このような活動を行う前に、活動内容等を予習する必要があると思う。

学 校 名	山口県立大津緑洋高等学校大津校舎
取組のタイトル	「サイクル・スクールリーダー」による交通安全及び防犯の啓発活動
取組の概要	「サイクル・スクールリーダー」に委嘱された生徒が、警察や地域の交通安全協会の方々と協力しながら、自転車の安全利用や防犯を本校生徒や通行人に啓発した。

1 計画の内容

(1) 実施の目的・主体・対象

自転車の安全利用や防犯を推進することを目的に、長門警察署が主体となり、本校の生徒を対象として、「サイクル・スクールリーダー」を委嘱し、啓発活動を実施。

(2) 実施までの準備

新年度に入り、長門警察署からの依頼を受けて、「サイクル・スクールリーダー」の任務や意義を生徒に説明した上で、「サイクル・スクールリーダー」を募集し、5月15日(木)までに長門警察署に推薦生徒を連絡。

(3) 実施内容の概要

- ・学校の交通リーダーとして、本校の生徒に自転車の安全利用の励行と交通ルールの遵守及び鍵掛けを指導する。
- ・学校付近での本校生徒に対する交通安全指導や広報啓発活動をする。

(4) 実施の時期

5月22日(木) 委嘱式及び防犯・交通講習〔於：長門警察署〕

6月9日(月) 交通安全指導及び広報啓発活動〔於：学校周辺〕

2 活動の様子

(1) 長門警察署における委嘱式(5月22日〔木〕)にあわせて、自転車の施錠を中心に防犯意識を啓発していくことの大切さについて、1時間程度の講義を受講した。

(2) 6月9日(月)に、長門警察署員及び長門交通安全協会の方と協力して、学校(大津校舎)周辺において、下校する生徒及び自転車通行する人々に、自転車用盗難防止ワイヤーキーを配付しながら、自転車の施錠による盗難防止を呼びかけた。

3 生徒の感想

- ・長門市内の自転車に関する安全を指導でき、高校生らしい活動をすることができた。来年度は、小中学生とも協力していきたい(1年女子)。
- ・通学路にも様々な危険があることが分かった(1年女子)。
- ・自分自身も日頃の交通安全について、改めて考え直すことができた(2年女子)。
- ・交通マナーをきちんと守ろうと改めて考えるよい機会となった(2年女子)。
- ・「安全」の重要性がよく分かり、社会のルールが守られているからこそ、毎日笑顔ですごせると感じた。(2年男子)



4 成果と課題

(1) 成果

本校生徒の交通安全や自転車防犯に対する意識が高まった。
主体的な活動を通して、リーダー生徒の指導者としての資質が向上した。
地域住民と一緒に活動することにより、相互の理解が深まった。

(2) 課題

活動の時期と回数が限定的であるため、年間を通じた継続的な活動に発展させる。
本校でも交通委員会の諸活動と関連させるなど、主体的に活動を展開する。
近隣の小中学校とも連携・協力して活動を展開する。

学 校 名	山口県立大津緑洋高等学校日置校舎
取組のタイトル	地域に根差した安全意識の醸成
取組の概要	生徒会、家庭クラブ、ボランティア部に所属する生徒が、地域の中で活動に取り組む。

1 計画の内容

(1) 駅舎清掃

実施の主体 : 生徒会、部活動生徒等

実施までの準備 : 清掃道具の準備

実施内容の概要 : 通学路や駅舎の清掃をしながら、危険箇所などの発見を通じ、安全意識の向上と地域を見守る活動を行っている。

実施の時期 : 月1回

(2) さわやか挨拶運動

実施の主体 : 生徒全員、家庭クラブ、生徒会

実施までの準備 : 当番表の作成(担当教員、生徒)

実施内容の概要 : 教員と生徒が、毎朝当番制で、登校生徒や地域の方々に挨拶運動を行っている。

実施の時期 : 毎日

(3) 少年リーダーズ活動

実施の主体 : 3校舎生徒会、有志生徒(サイクル・スクールリーダー)

実施までの準備 : リーダーズ活動参加生徒の募集

実施内容の概要 : 商業施設の入り口で薬物乱用防止の呼びかけを行ったり、警察署員の方々と店内の巡視を行ったりしている。

実施の時期 : 年間適宜

2 活動の様子

(1) 駅舎清掃

警察署の方の指導を受けながら、生徒20名程度が長門古市駅駅舎、トイレ、駅から学校までの通学路の清掃をしながら、危険箇所の発見や地域の高齢者、下校中の小学生への声掛けを行い、地域を見守っている。



(通学路清掃の様子)

(2) さわやか挨拶運動

校門前で登校生徒や地域の方々に挨拶を行うことで、校内のみならず地域の方々との関係づくりに大切な役割を果たしている。



(さわやか挨拶運動の様子)

(3) 少年リーダーズ活動

商業施設での薬物防止の呼びかけ運動、万引き防止に向けた店内巡視、高齢者宅を訪問しての詐欺被害防止の呼びかけ活動、自転車の盗難防止活動を通じ、生徒の主体的な安全推進意識の向上を図っている。

3 生徒の感想

(1) 駅舎清掃

- ・改めて通学路を歩くと、道幅が狭く並列に歩いたり、自転車で走行したりすることの危険を知ることができてよかった(2年男子)。
- ・普段何気なく歩いているが、交通に気を付ける意識が高まった(2年女子)。

(2) さわやか挨拶運動

- ・近隣住民の方々に顔を覚えていただき、気持ちよく挨拶されるとうれしい(2年女子)。

(3) 少年リーダーズ活動

- ・高校生でもできることがあると感じた(2年男子)。
- ・自転車の施錠をツーロックにするなどの対策を習慣付けることが大切だと思った(2年女子)。

4 成果と課題

(1) さわやか挨拶運動について

- ・さわやか挨拶運動を継続して行うことにより、生徒同士の相手を思いやる心が育成されている。また、地域の方にも積極的に挨拶を行っており、生徒の成長を実感することができる。地域の方々と連携を深める一助となっている。
- ・高齢者の多い地域ということもあり、より地域と連携し、高校生が地域の安全に貢献できる活動を考えていきたい。

(2) 駅舎清掃について

- ・生徒が地域に貢献し、地域の方から励まし等の声掛けをしていただくことも多く、生徒の自己有用感が高まり、授業や校内活動により影響を与えている。
- ・参加生徒が固定されているので、他の部活動生徒の参加を促していきたい。

(3) 少年リーダーズ活動について

- ・昨年度の諸活動が少年の健全育成に貢献したと評価され、平成26年5月9日に県警より表彰を受けた。今後も地域の安全に貢献していく活動を続けていきたい。

学 校 名	山口県立大津緑洋高等学校水産校舎
取組のタイトル	地域と連携し、安全意識の高揚をめざす
取組の概要	生徒会を中心に、地域の方々との繋がりを築き、地域の一員として積極的に地域活動に取り組む。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 仙崎海岸清掃 実施の主体 : 生徒会を中心に学年単位 実施までの準備 : 清掃道具の準備 実施内容の概要 : 通学路や観光基地の清掃、危険な個所の発見・確認 実施の時期 : 学期1回</p> <p>(2) 朝のあいさつ運動 実施の主体 : 風紀委員会メンバー 実施までの準備 : 当番表の作成(担当教員、風紀委員長) 実施内容の概要 : 生徒が毎朝当番制で挨拶、交通安全活動の呼びかけ 実施の時期 : 月に1週</p> <p>(3) 少年リーダーズ活動 実施の主体 : 3校舎生徒会、サイクル・スクールリーダー 実施までの準備 : リーダーズ活動参加生徒の募集 実施内容の概要 : 献血・薬物乱用防止の呼びかけ、自転車置き場の整理整頓 実施の時期 : 年間適宜</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 仙崎海岸清掃 生徒会が学年別に清掃場所を決定し、学校前の観光地(みすず公園、観光船乗り場)や海岸を清掃しながら、教員とともに危険箇所がないか確認していた。また、歩行者や商店街の方々とのコミュニケーションや挨拶を行い、地域との繋がりを大切にした。</p> <p>(2) 朝のあいさつ運動 校門前で登校生徒や地域の方々に積極的に挨拶を行い、地域の方々や小中学生との関係づくりを積極的に行った。</p> <p>(3) 少年リーダーズ活動 商業施設の入口等で、警察やボランティアの方々と薬物防止の呼びかけ、献血の呼びかけ、万引き防止に向けた店内巡視、自転車の盗難防止活動及び駐輪場の整理整頓に主体的に参加し、防犯に必要な知識及び命の大切さなどを学んだ。</p> <p>3 生徒の感想</p> <p>(1) 仙崎海岸清掃 ・空き缶など、一つ間違えれば交通事故に繋がる大きな問題であると感じた(2年男子)。 ・地域の方に声をかけられて、気持ちよかった(1年男子)。</p> <p>(2) 朝のあいさつ運動 ・中学生の挨拶の大きさに負けないようにしようと思った(1年男子)。 ・歩道での自転車のスピードの出し過ぎは危険だと感じた(2年男子)。</p> <p>(3) 少年リーダーズ活動 ・自転車を施錠していないものがあったことにビックリした(3年男子)。 ・放置自転車があるのに驚いた。長門市は観光地なので、街の外観を保つためにも放置</p>	

自転車をなくさなければと思った(3年男子)。

- ・防犯カメラなどが、いろいろな場所に設置されていることを知ることができた(3年女子)。

4 成果と課題

(1) 仙崎海岸清掃について

- ・生徒が地域の方とコミュニケーションをする場面を多くもつことができた。それにより、教育の原点である地域との連携の大切さや、地域と関わることで得る生徒の自己有用感の高まりを感じた。また、学校生活における生活習慣の改善にも、よい影響を与えらると思う。今後、地域の方と合同で清掃活動などを行う計画ができればと考える。

(2) 朝のあいさつ運動について

- ・朝のあいさつ運動を行うことで、コミュニケーションに不可欠な挨拶の大切さを感じるとともに、生徒同士の相手を思いやる心が育成された。また、積極的に歩行者へ挨拶を行っており、地域の方々との一つの交流の場面となっている。長門市を元気な観光地としてアピールできるよう、挨拶及びマナーの育成を大切にしたい。

(3) 少年リーダーズ活動について

- ・地域の方々と一緒に様々な活動をしたことで、防犯等に関する考え方が主観的な見方から、客観的な見方へ変わってきたように感じた。今後、これらの活動に参加した生徒の感想、振り返りを全校生徒へフィードバックする機会をもつ取組を考えたい。

学 校 名	山口県立萩高等学校
取組のタイトル	生徒会執行部と地域の方（町内会長）との懇話会の開催（主に交通安全について）及びその内容の全校生徒へのフィードバック
取組の概要	生徒会執行部と学校が所在する地域の町内会長との懇話会を開催し、その内容を全校生徒へ示し、今後の安全（特に交通安全）につながる活動を行った。

1 取組の内容

(1) 本校の現状

本校は昔ながらの町並みが残る萩市堀内地区に存在し、学校周辺の道路は狭く、見通しの悪い交差点が多い。それ故に内外から生徒の交通安全・マナーに対して指摘されることが多く、その向上が本校の課題の一つとなっている。

(2) 町内会長との懇話会

11月中旬、連絡・調整のうえ堀内地区町内会長を学校へ招き、懇話会を開催した。本校からは、生徒会執行部及び交通委員長と風紀委員長が参加した。地域の現状や地域の方々の言葉を直接聞く機会となった。

(3) 全校生徒へのフィードバック

町内会長との懇話会で得た内容を、今後の学校生活に生かすため、全校生徒へフィードバックする方法を検討し、
 全校集会・校内放送等での呼びかけ
 生徒会新聞の作成
 生徒会執行部と風紀委員合同による交通安全指導を実施することとした。

2 活動の様子

(1) 町内会長との懇話会

萩市堀内地区町内会長と連絡・調整のうえ、懇話会を実施した。交通安全に関するだけでなく、高校生としてのあり方や、生徒会執行部としてどのように取り組むべきか等、多くの示唆をいただいた。



町内会長との懇話会

(2) 全校集会・校内放送での呼びかけ

上記懇話会の結果を踏まえ、生徒会執行部及び交通委員長・風紀委員長で話し合いを行い、全校生徒へ向けて交通ルールの遵守やマナーの向上を目的とした呼びかけの内容を検討した。12月下旬の全校集会において、生徒会長、交通委員長、風紀委員長3名が今回の懇話会の報告及び呼びかけを行った。また、後述する生徒会執行部・風紀委員合同による交通安全指導の様子や感想を1週間、昼休みに校内放送で全校生徒へ知らせた。

(3) 生徒会新聞の作成・配布

定期発行の萩高校生徒会新聞の号外版を作成し、全クラスへ配付。内容は、懇話会の様子や登下校中の交通ルール・マナーに関するもの及び自家用車での送迎の場合のルールの確認等。

(4) 生徒会執行部・風紀委員合同による交通安全指導

1月中旬の1週間、生徒会執行部と風紀委員による朝の交通安全指導を行った。交通安全週間には、教員と交通委員による安全指導を定期的に行っているが、今回は「あいさつ運動」も含め、生徒主体で行われた。



交通安全指導




生徒会新聞

3 生徒の感想

- ・ (懇話会に参加して) 直接お話を伺うことで、私たち萩高生の交通マナーが地域で問題視されていることが分かった (生徒会執行部2年女子)。
- ・ (交通安全指導を行い) 自転車乗車中のルール・マナーは、以前よりよくなっていると思う (風紀委員2年女子)。

4 成果と課題

地域の方との直接の話し合いにかかわった生徒については、かなり印象に残った様子で、それが新たな取組・活動の原動力となっている。しかし、全生徒の意識を高めていくためには活動の継続や内容をさらに高めていくことが必要であり、今後の課題としては、時間的制約がある中で、他の活動と合わせてバランスを取りながら計画・実行していくことが挙げられる。

学 校 名	山口県立萩商工高等学校
取組のタイトル	部活動生徒による災害安全に向けた取組
取組の概要	部活動生徒等を対象としたAEDを使った救命救急講習を実施した。また、活動場所の施設・設備について「チェックリスト」を使い、主体的な安全点検を実施している。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 救命救急講習 生徒会（主に保健委員会）が中心となり、各部活動の部長へ参加を呼びかける。講師を日本赤十字社山口県支部へ依頼し、救命救急講習（AED講習）を7月18日（金）13:00～15:00 本校会議室にて実施した（なお、教職員対象の講習会は7/7（月）、全1年生対象の講習会は、教科「保健」にて10/24（金）に実施した）。</p> <p>(2) 活動場所の安全点検 運動部活動で使用する施設・設備等について、生徒自らがチェックリストを使い、安全点検を実施している（7月実施）。なお、チェックリストは部顧問を經由して保健体育部で取りまとめ、改善要望等を行っている。</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 救命救急講習 各部活動の部長を中心に生徒46名が参加し、傷病者発見から救急隊へ引き継ぐまでの救命処置の流れについて、グループごとに実習を行った。本講習会は今年度で3回目の開催となるが、今回は文化部の生徒も参加するなど、災害安全に対する取組の充実が図られている。講習の中では、簡単な応急手当の方法や「『救命の連鎖』・『救命のリレー』における「何か一つ」でも行動に移す勇気の大切さ」などを教えていただいた。（救命救急講習の様子）</p>  <p>(2) 活動場所の安全点検 チェックリスト（施設・設備・用具、活動、救急体制）に従って、活動環境の安全点検を行っている。「ヒヤリ・ハット」の状況を部員内で共有し、部活動での事故やけが等の未然防止を図っている。</p> <p>3 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 救命処置が必要な場面はあまりないと思うが、その時にはきちんと周囲の人と連携して対応したい。 人命救助は大切だが、正しい知識がないと状態を悪化させてしまうので、誤った知識との区別が大切だと思った。AEDの大切さがよく分かった。 もし倒れている人がいたら、ためらわずに助けたいと思った。 <p>4 成果と課題</p> <p>救命救急講習では、胸骨圧迫やAEDを使用した「心停止」への対処法の習得とともに、生徒一人ひとりが普段の生活習慣等を見直し改善することで、その発生リスクを低下させることが可能となることについても学ぶことができた。特に、「未然防止」に向けた取組は、安全教育の最も重要な視点であり、部活動における事故やけがを防止するための日常的な安全点検の必要性についても再認識することができたのではないかと考える。</p> <p>今後も安全教育についての体験的な取組を通して、学校や地域において主体的に安全に貢献することができる態度をより一層育てていきたいと考えている。</p>	

学 校 名	山口県立奈古高等学校
取組のタイトル	生徒が中心となった交通安全への取組
取組の概要	交通マナーアップに関する標語・ポスターを募集し、校内外に掲示・配付した。交通委員がサイクル・スクールリーダーとして取り組んだ。

1 計画の内容

(1) マナーアップキャンペーン

安全な自転車の乗り方や列車等公共交通機関でのマナーアップを呼びかける標語・ポスターを募集・作成する。校内や地域・公共交通機関に配付・掲示する。

(2) サイクル・スクールリーダー

交通委員が中心となって、萩警察署交通課と連携し、自転車点検を実施する。また、毎月1日に奈古駅前交差点で、自転車のマナー指導、あいさつ運動を行う。

(3) 交通マナーアップ作戦

2学期に生徒会、家庭クラブ、交通委員が交通マナーアップ作戦に参加する。

2 活動の様子

(1) 萩地区高等学校生活指導連絡協議会が主催しているマナーアップキャンペーンに、全校生徒が交通安全や公共でのマナーに関する標語を応募した。生徒自らが標語を考えることで、問題意識の高揚につながっている。本校生徒がJR賞を獲得した。



(2) サイクル・スクールリーダーでは、交通教室などでお手本となったり、毎月奈古駅前交差点で、自転車のマナー指導を行ったりするなど積極的に活動した。

(3) 交通マナーアップ作戦では、家庭クラブがマスコットを作成・配布したり、生徒会が交通安全を呼びかけたりしたことにより、阿武町交通安全大会で阿武町から表彰された。



3 生徒の感想

・表彰されることで、達成感が味わえた。様々な地域の方からの声かけがうれしく、今後も地域のためにいろいろなことにチャレンジしていきたい。

4 成果と課題

生徒会が中心となって、様々な行事を企画・運営した。マナーアップキャンペーンでは、全生徒が標語作成に参加し、交通安全、公共のマナー向上につながった。また、サイクル・スクールリーダーとして公に任命されることで、生徒に自覚ができて、進んで活動することができた。家庭クラブで作成したマスコットは好評だった。

一部の生徒しか交通安全に関する活動に参加ができなかったことから、今後は、全校生徒の安全に対する意識が高揚するような取組を考えていく必要がある。

学 校 名	山口県立下関中等教育学校
取組のタイトル	少年リーダーズによる万引き防止のための活動
取組の概要	本校4・5回生の生徒が、シーモール下関、エスト内のテナントに出向き、店舗の防犯体制、設備及び陳列方法等を点検した。
<p>1 計画の内容</p> <p>(1) 実施日時 平成26年6月19日(木) 午後4時30分から(1時間程度)</p> <p>(2) 実施場所 下関市竹崎町四丁目4番8号 シーモール下関、エスト内のテナント(6店舗)</p> <p>(3) 参加者 ・少年リーダーズ(下関中等教育学校生徒、下関短期大学附属高校生徒) ・警察ボランティア ・下関警察署生活安全課員、西部少年サポートセンター員</p> <p>(4) 実施目的 万引き防止を図るため、防犯体制、防犯設備及び商品の陳列方法等を少年の視点で点検し、少年が点検することにより、店舗の防犯意識の高揚を図るとともに、少年の非行防止等規範意識の向上に資することを目的とする。</p> <p>2 活動の様子</p> <p>(1) 下関警察署からのあいさつ</p> <p>(2) 店舗からのあいさつ</p> <p>(3) 万引き防止点検活動 ・3グループに分かれて衣料品店、薬局、雑貨店等を訪問した。 ・チェックリストを参考に、防犯体制や商品の陳列方法に不都合な点がないか、細かく確認した。</p> <p>(4) 活動内容の報告 ・各グループごとに、各店舗毎に改善点や気づきを報告した。</p> <p>3 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての経験で緊張したが、お店のために少しは貢献できたと思う。この報告を参考にさせていただき、万引きが無くなることを願っている。 ・今回の活動で少しでも万引きが無くなるよう、お店側が気をつけるのは当然だが、僕たちも学校へ帰って万引きを防止するための呼びかけをしていこうと思った。 <p>4 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に参加した生徒は規範意識も十分に向上し、成果があったと思う。 ・各店舗に客の視点で適切なアドバイスができ、成果が十分にあったと思う。 ・参加していない生徒の防犯意識の高揚を図る機会を、どのようにして与えるかが、重要であり、課題だと思う。 	

学 校 名	下関市立下関商業高等学校
取組のタイトル	自転車安全教室
取組の概要	自動車学校指導員を講師に招き、自転車にかかわる交通ルールやマナーの学習とシミュレーターを使った実技を実施した。

1 計画の内容

(1) 実施の主体・対象

自動車学校指導員による講習 1、2学年対象

(2) 実施までの準備

自動車学校担当者と、電話連絡及び自動車学校へ訪問しての打ち合わせを通して、当日の会場や準備物等を確認するとともに、進行担当の生徒会執行部と、進行についての打ち合わせを実施した。

(3) 実施内容の概要

パワーポイントを使った自転車にかかわる交通ルールの学習、事故の事例を用いた賠償等の学習、シミュレーターを使った実技を実施した。

(4) 実施の時期

7月17日(木) 10:50~11:45

2 活動の様子

(1) パワーポイントによる学習

×クイズ形式で交通ルールを学習。生徒たちからは、「へえ〜。」「そうなんだ。」という声が、たくさん挙がった。

また、事例を用いた賠償の学習では、自転車も自動車と同じ扱いであり、大きな責任を負うことに驚いていた。

(2) シミュレーターによる実技

代表生徒2名がシミュレーターに乗り、実技を体験。

指導員が解説しながら、交通ルールやマナーを学習した。かなり違反が多いことに生徒たちは驚いていた。



3 生徒の感想

イヤホンをつけて運転したり、二人乗りをしたり、思い当たるものがたくさんありました。地元が田舎だから車の通りも人の通りも少ないから大丈夫だろうと思っていたけど、逆に事故の被害者となる高齢者が多いから、気を抜くと自分が加害者になるかもしれないということに気がつきました。

4 成果と課題

生徒たちは普段何気なく自転車に乗っているが、運転者として守らなければならないルールや運転者や、歩行者等が気持ちよく通行できるマナー等を、再確認することができた。感想の中でも、日常の何気ない場面がよく考えるととても危険であることを、多くの生徒たちが書いている。危機意識を養うきっかけとして、大いに役立ったと考えられる。

高校生学校安全アクション実践事例集

平成27年（2015年）3月

山口県教育庁 学校安全・体育課

〒753-8501 山口市滝町1番1号

問合せ先

電 話 083-933-4673

ファックス 083-922-8737

メー ル a50500@pref.yamaguchi.lg.jp

Webページ [http://www.pref.yamaguchi.lg.jp
/cms/a50500/index/](http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50500/index/)